

Minato International Association

港区国際交流協会

No. 32

South Wind

〒105-8511 東京都港区芝公園 1-5-25 港区役所内
1-5-25 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo 105-8511

November 21, 2001

Tel. 03-3578-3530 / Fax. 03-3578-3537 / E-Mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

目次・Contents・目录

スティーヴンス ハルミのアメリカ便り (30) アメリカの精神.....	2
A Letter from the U.S.A. (30) The Spirit of America	3
胆忽柁芝 (30) 胆忽娼舞.....	3
ナマサカーンプラパトムチェディ.....	4
Na Ma Sa Kram Phapathomjedee.....	4
Na Ma Sa Kram Phapathomjedee.....	5
ニュージーランド便り (20) アオテアロアから.....	6
A Letter from New Zealand (20) Hello From Aotearoa	6
仟廉声肴佚 (20) 栖徭啞天密啞袋啞.....	7
カタル大使館に行って.....	8
A Visit to the Embassy of the State of Qatar.....	8
肇触満櫛寄聞鋼阻.....	8
カタル大使館を訪問して.....	9
A Visit to the Embassy of the State of Qatar.....	9
恵諒阻触満櫛寄聞鋼.....	9
港区今昔 港区の大名墓・その7 賢崇寺 (鍋島家).....	10
Look into Minato City --The Tombs of Feudal Lords (7) Kenso-ji Temple (Lord NABESHIMA).....	12
雇曝書劣 雇曝議寄兆長岷鈍詫括紡 (腰戯社).....	14
バンコクの四方八方 (9) 微笑の国タイからタイのオバケを代々木で見た!?.	16
All Directions of Bangkok (9) From Thailand - A Pleasing Country I Saw a Thai Spook in Yoyogi!?.	17
歴旗旗直心欺阻密忽劑娼!?.	18
世界に共通の価値観 (バリュー) の導入を -米国同時多発テロに思う-	19
Call for Respect for Common Values in the World - Thinking over the terrorism that took place in the U.S.	20
哈序弊順慌肴議勺峙鉞 -貫胆忽訊伽試強恣欺議-	21
編集後記.....	23
Post-script	23
園辞瘁芝.....	23

【9月24日】

アメリカの旗があちこちにはためいています。教会、学校、商店、レストラン、そして住宅地の家の前にも星条旗がはためいています。ニューヨーク市の世界貿易センタービルとワシントンDCのペンタゴンがテロリストに攻撃されてわずか2、3日後、人びとはアメリカの旗を掲げ始めました。小さな旗が行き交う車のアンテナにつけられ、郵便受けに旗を飾る家もたくさん現れました。人びとは星条旗を飾ることで愛国心を表そうとしているのです。たくさんのお店で、星条旗があつという間に売り切れてしまったそうです。お店で旗を買いそびれてしまった人は胸に赤、白、青のリボンを飾って愛国心を表しています。

9月11日に起こったことはほとんどの人にとっては理解に苦しむ事件でした。攻撃のあった翌日から後に見つかった生存者は一人もおらず、世界貿易センターでは6,453人が生存の確認ができず、ペンタゴンでも189人が死亡したものとみられています。ニュースでは愛する者や友人の生存が確認できないまま一縷の希望を捨てきれずにいる人びとの様子等を細かく報道し、その様子は見ている者の心を締め付けました。テレビの画面を通してアメリカの人びとは痛み、悲しみ、絶望を分かち合っているようでした。アメリカの国全体が嘆き悲しんでいました。

アメリカが喪に服し、瓦礫の下から生存者を発見することへの希望を失っていく中で私は、アメリカの精神が絶望の中から立ち上がるのを見ました。多くの人の心が引き裂かれる中、アメリカの人びとの心は一体となっていくのです。

アメリカ赤十字によると、世界貿易センターが最初に攻撃されてからわずか16時間の午前1時まで、災害時の救済の特別訓練を受けている赤十字の職員400人以上が呼び集められ、マンハッタンには12カ所の避難所が設置されて、そこで150人以上の被害者が寝る所を与えられたといわれています。アメ

リカ合衆国の災害時の反応には目覚しいものがあります。ニューヨーク市の勇敢な消防隊員たちは文字通り自分たちの生命を危険にさらして救助にあたりました。警察官や、救急医療のスタッフたちもほとんど眠らずに救助活動を続けました。彼らは真のヒーローたちです。人びとはこれらプロたちの勇敢な行動に胸を打たれました。しかし、それよりもっと私の心を打ったのは一般市民の反応でした。夜が明けると、現場からわずか3マイル北にある赤十字ニューヨーク支部には100人以上の人が助けになろうと押し寄せたのです。その場で寄付のための個人小切手を切る人もいれば、ボランティアとして働くために登録する人、献血のために来た人もいたそうです。そして、赤十字の職員が翌朝6時にトラックから荷物を降ろすために75人のボランティアが必要だと呼びかけると、数分のうちに必要な人数の人が名乗りをあげたといえます。ニューヨーク市での人びとのこの災害に対する反応は本当にアメリカらしいと思います。

事実、アメリカ合衆国全体が献血の呼びかけにすぐに反応しています。ほとんどどの街でも人びとは列を作って献血をしたのです。人びとが長い列を作る中、必要だった血液はあつという間に集まりました。お金の寄付が必要だという呼びかけにも人びとはすぐに応えました。ニューヨークとワシントンの被害者のために全国から寄付がどんどん届きました。

アメリカ人の一人ひとりが、被害者のために何かをしたいと思いました。アメリカ人の一人ひとりが、アメリカのために何かをしたいと思いました。アメリカ人の一人ひとりが、この悲劇に立ち向かおうとしているアメリカを誇りに思いました。だから人びとはアメリカ合衆国の旗を掲げます。卑怯なテロリストによって打撃とショックを受けても負けてはいない、アメリカは固く団結しているのだと訴えながら…。

日本語で話す会 / "Let's Chat in Japanese"

港区国際交流協会では、日本語を勉強していても実際に話す機会がない外国人の方、新しく友だちをつくりたい、話題に興味をお持ちの外国人の方を対象に「日本語で話す会」を毎月第二/第三土曜日に開いています。中級レベルでは身近な話題を中心に、上級レベルでは時事問題を中心にお話を進めます。LCJ ボランティアスタッフがお待ちしております。

ぜひ一度、ご参加ください。

日にち：12月8日(土)、2月16日(土)、3月16日(土) 午前11時～12時30分

場所：三田 NN ホール スペース D (港区芝 4-1-23)

If you do not have any opportunity to speak it out in spite of studying Japanese, or if you want to make friends, and have an interest in discussion / exchanging of opinions, you are welcome to join our LCJ, "Let's Chat in Japanese," meeting. We have intermediate and advanced levels. Let's have a great fun chatting in Japanese!!

Date: Saturdays, December 8, February 16 and March 16

Time: 11:00 a.m. to 12:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku

A Letter from the U.S.A. (30) The Spirit of America

Harumi STEPHENS

[September 24, 2001]

American flags are everywhere. The Stars and Stripes is flying at churches, schools, retail stores, restaurants, and in many people's front yards. Just a few days after the terrorists' attack on the World Trade Center in New York City and the Pentagon, not only in New York and in Washington D.C., but all over the country, people started to fly American flags. Small flags are on antennas of the cars people drive. They are also on mailboxes in front of many houses. People are trying to show their patriotism by flying the Stars and Stripes. Stores quickly sold out all of the American flags on their shelves. Those who could not find the American flag at stores are wearing red, white, and blue ribbons as another way of demonstrating their patriotism.

What happened on September 11th was incomprehensible to most of us. No survivors have been pulled out since the day after the attacks, and 6,453 people are missing in the World Trade Center attack. There are 189 people missing or presumed dead at the Pentagon. Extensive news reports on the efforts to search for survivors and the news coverage about the people who were holding on to their hopes to locate loved ones or friends made our hearts bleed. Through the television screen, American people were sharing the ache, the sorrow and the feeling of despair. The whole country was in mourning.

As the U.S. mourns and the hope of finding survivors under the rubble diminishes, I also witnessed the spirit of America rise from the despair. While many hearts were torn, the unity of American people strengthened.

According to the American Red Cross, by 1:00 a.m., only about 16 hours from the initial attack on the World Trade Center more than 400 Red Cross trained disaster workers had

been called to the area, and 12 Red Cross shelters had been opened in Manhattan where more than 150 people spent the night. How the United States responds to national disasters, to me, amazing. The brave firefighters of New York City literally risked their lives to save people. The police, the emergency medical staff, all worked with little or no sleep. They are true heroes. People were moved by the heroic acts of those professionals. However, what moved me more was the reaction of the citizens. After daybreak, more than a hundred people flooded the Greater New York chapter of the Red Cross, three miles north of Ground Zero, to offer help. They were writing checks, signing up for volunteer work, or trying to give blood. When a Red Cross staff member asked for 75 volunteers to show up at 6:00 a.m. the next day to unload trucks, the sign up list was filled in minutes. The way people responded to the disaster in New York was uniquely American.

In fact, across the country, people responded to the call to give blood. In almost every city in the States, people lined up to give blood. The blood supply was quickly satisfied, while people were still lining up to give blood. People also responded to the need for monetary donations. Across the nation, money was pouring in to help victims in New York and in Washington D.C.

Every person in America wanted to do something for the victims. Every person in America wanted to do something for America. Every person in America is proud of how America is responding to the tragedy. So people fly the flag of the United States of America, saying that while America was stunned and shocked by the cowardly act of the terrorists, we are not defeated and still united.

胆忽佟芝 (30) 胆忽娼舞

Harumi STEPHENS

[9 坵 24 晚芝]

佛訊繩欺侃鬪刺，縮銘，僥丕，斌糾，斌糾，架鋼參式壓廖姪念脊峨彭佛訊繩。摘埃才鯖腹禽議勵叔寄促瓜姆朔 2-3 爺，繁斷祥蝕兵峨佛訊繩阻。弑弑議佛訊繩航壓廿概議爺^キ貧，峨壓徭社壇念議曉^レ念，繁斷參佛訊繩栖燕器徭失議握忽岷伉。斌糾戰議佛訊繩瓜？杭匯腎，短嗤拮欺議祥壓俟念航貧碇，易，清議科揮栖燕器徭失議握忽岷伉。

9 坵 11 晚促窟伏議訊伽並周斤寄謹方繁栖傍頁載佃崔佚議。並周窟伏朔及屈爺祥短嗤孀欺匯倂侑匱^レ，弊順坦叟嶄伉寄促 6453 繁和鯛音芋，勵叔寄促 189 繁音岑和鯛。仟療烏祇嶄辛參心欺椎^レ音慧虹恣朔匯^キ鍊李監孀徭失牌繁議繁斷，菲強繁伉。宥狎窮篇德鳥心欺胆忽繁議祐逗，丑彬，蒸李。胆忽柿償壓丑彬岷嶄。

壓訟忽捲丕才伏匱議鍊李坵栖坵柱達岷嶄，厘心欺阻壓蒸李嶄疊軟議胆忽娼舞。壓震糠丁伉議丑挨嶄繁斷妖潤攪匯悶。

象胆忽矜噴忖忖氏議烏祇，壓弊順坦叟嶄伉寄促瓜姆朔 16 弑扮議貧伶 1 泣，400 兆鞭狎照牆儼膳議矜噴忖忖氏繁垂枯欺^⑬魁，譜羨阻 12 倂照牆魁促，葎 150

兆參貧鞭墾^レ戾工阻嶄粗。胆忽壓墻墾扮郡听噴蚩儻堀，嚇契錦垂丹彭伏凋歌紗阻照擦試強。少賀才匱粗繁垂勿街^レ照廁。磨斷頁寔屎議晒俛。磨斷議並治綜繁湖強。徹厚綜繁湖強議頁嶄宥偏酌議郡听。爺胡疏祥嗤 100 謹繁枯欺宣^⑬魁 3 戰議矜噴忖忖氏摘埃劣何，勳箔歌紗照擦試強。象傍嗤繁乘錘，嗤繁鞠芝歌紗唸磨照廁，嗤繁^⑭僅。貧伶 6 泣，亢照址麗佛倂勳 75 繁逸脫，短叱蚩嶄祥校阻。摘埃繁耐斤照墻議郡听議鳩悶^⑬阻胆忽娼舞。

並糞貧，壓頁軒勳箔^⑭僅扮繁斷議郡听勿載儻堀，叱窄促嗤議^⑭僅翊脅電攪錦雙。促倂議僅楚，載醉祥校阻。乘錘勿頁泌緩。乘錘遜忽徭欺摘埃才鯖腹禽。

耽匯倂胆忽繁脅壓深打徭失孀徭鞭墾^レ恬泣焚担，耽匯倂胆忽繁脅壓深打徭失孀徭胆忽恬泣焚担。耽匯倂胆忽繁脅音^{KK}丑挨莫捲議娼舞湖欺從裕。屎咀徭泌緩，繁斷嘉峨佛訊繩。埋隼壘欺阻嬉似，徹繁斷音氏莫捲器確榮議訊伽試強，胆忽繁酌諸諸妖潤壓匯軟...

[鐵咎：今鳴]

ナマサカーンプラパトムチェディ

ジャポワニチ 小百合 (日本)

バンコクから西に57km、車で1時間ぐらい走ると、ナコンパトム (Nakornpathom) 県の名所、ナマサカーンプラパトムチェディ (Na Ma Sa Kram Phapathomjedee) という世界最大の仏塔のあるお寺(正式名はもっと長い)がある。チェディ (jedee) とは伏鉢型の大仏堂のことで、高さ120m、周囲は235mもある。そこで毎年、11月10日過ぎ頃から10日間にわたって、ナマサカーンプラパトムチェディ祭がある。タイ全土から数千人の参拝客が訪れ、毎日夜中まで盛り上がるのである。

開祭日には、学生たちが着飾って学校ごとに暑い中をパレードする。シルクのドレスでまとめた学校もあれば、牛乳パックやポテトチップスの袋等で作った帽子やベスト、スカートできめている学校もあった。この辺が貧富の差が激しいタイ社会らしいが、後者の方がけばけばしい化粧をした子どもたちより学生らしくて私には好ましい。タイ人は何かの催しがあると、男の子でさえ、これでもかというほどファンデーションを塗りまくり、真っ赤な口紅をするのだ。「だから、タイではゲイが多いの?」と言ったらタイ人も頷いていたが、どうだろうか…。

広大なお寺の中とその周りには出店が並ぶ。その数は数知れない。屋台、洋服、寝具、小物、アクセサリー、ヘアカット、家具、占い、ペット、瀬戸物、植木、舞台、モーターショーと様々である。普段あまり見かけない入れ墨を彫る人や、子豚の丸焼き、数種類の虫やアヒルの子(?)を丸ごと揚げて売っているのには多少驚いた。夜になると、ローラーの列車が走り、たくさんの風船が売られる。ぬいぐるみやおもちゃ屋さん、子ども用のゲームもあるので、子どもたちも大喜びだ。

このお祭りの中で私がとても楽しんだものがある。射撃だ。ピストルとライフル銃があって、どちらも22径と小型だが、本物である。5発30パーツで、誰でも打つことができる。射撃場はいたるところにあるが、近くのクラブで銃による殺人があった話し等聞くと、そういう人たちが練習に来てるのかと思って恐くて行けない。その点、このお祭りでは警官がどの場所にもついている。それでも、毎日数え切れないほどの一般市民が銃を手にし撃っていく

のである。最初は驚いた。これだけの銃を買うのは税金の無駄遣いじゃないかと思ったり、終わる頃には2、3丁無くなっていたりして…等と考えたが、警察官に伝えたと、普段彼らが練習に使っているものなので決して無駄ではないし、危なくはないという答えが返ってきた。「でもあんな幼い女学生にまでこんな機会を与えていいのかしら?」と言うと、6人みんなが口をそろえて良い経験だと言った。国民性の違いを思い知った。他のタイ人に聞いてもやはり皆同じ意見だし、射撃が好きだと答えた。「日本みたいに銃がなければ安心できる世の中が…。」「NYで企業が団結して、銃と引き換えにお金や割引券を配って銃をなくそうとする活動があり、市民が立ち上がったことがある」と言ってみても興味を示さず、「既に出回っているのじゃない、こういう機会は練習のため、またはスポーツの一環としてもたいへん良い」という答しか返ってこなく、この国から銃の存在が薄くなるのは永遠にないだろうと絶望した。とは言いつつも、ストレス解消になり、どこに当たったかを見るのが楽しみで、しばし、この国でしかできない経験に熱中した。私の日本人の友だちはうるさい音にがまんできず、危険性を口にしてた。集められたお金はお寺に納めるらしい。しかし、無口な警察官の上司がそう言いながら急に笑い出したところを見ると、なんか怪しい。

ところで、話をお寺に戻すが、日が暮れるとチェディの見事なイルミネーションが町のどこからも見ることができる。このお寺には珍しい仏像が多いので、見学するのに飽きない。日本語の説明書や絵葉書が参拝する近くで売られている。規模は小さくなるが、ポラマイ (Pholamai) 祭が12月半ばから始まるので、興味のある方はぜひ寄ってもらいたい。

ついでだが、ナコンパトムはタイ人の中では「グルメの町」として有名だ。それほどたくさんのレストランがある。屋台料理で胃を壊すかと心配な方は、ぜひレストランでお腹を膨らませて帰ってほしい。ホテルにナコンパトム名物の竹の中にもち米と小豆の入ったカオラアーン (Krawaam) を持ち帰って食べるのも、なかなかよし。

Na Ma Sa Kram Phapathomjedee

Sayuri JARTPOTWANICH (Japan)

Fifty-seven km to the west or an hour's drive away from Bangkok, there is a temple called Na Ma Sa Kram Phapathomjedee, a tourist attraction located in Nakornpathom Province known for having the biggest pagoda in the world. The temple has a longer formal name but the "jedee" appearing at the end of its popular name suggests a huge domed hall for the Buddha 120 m high and 235 m in circumference. Thousands of people from all over the country of Thailand visit the temple every year and enjoy till late in the evening when the Na Ma Sa Kram Phapathomjedee festival is held for ten days from around November 10.

During the festival, students march on parade wearing

their elaborate costumes in the heat of the day. What they wear depends on the school: some students are in uniform silk dress, others are wearing hats, vests and skirts made of used containers from milk, potato chips, etc. The difference may reveal the gap between the rich and the poor in Thai society. Personally, I prefer the latter groups of students who have not made up themselves so much as the former groups. Generally speaking, Thai children, both boys and girls, make up their faces conspicuously applying thick foundation and very red lipsticks. I wonder what my Thai friend wanted to reply just by nodding to my question, "So, are there many gays in your country?"

Numerous stalls are set inside and outside the huge temple. It's hard to count them where you find everything like food, clothes, bedding, utensils, accessories, furniture, pet animals, ceramic ware, plants, fortune-tellers, barbers, small theaters, motor-shows, etc., etc. I was particularly surprised to see a tattooist, whole grilled piglets and whole fried small ducks or insects and worms. They are something that I rarely find in towns. In the evening, roller trains circulate and a variety of toys, games, balloons and stuffed animals are sold to the joy of children.

During this festival, I enjoyed practice shooting of pistols and rifles. Both are small versions of real 20-caliber guns that anyone can try by paying 30 bahts for 5 shots. Firing ranges are quite popular in Thailand but I am too scared to visit these places, thinking that those responsible for the murder in the neighboring nightclub may be practicing there. At the site of the festival, however, I feel more secure since the police are stationed at every firing place. Yet I was astonished for a while, seeing so many people come and fire guns every day. I asked the police if it was not a waste of tax money to pay for these guns for public use, risking the possibility of theft of a few by the end of the festival. They replied that the guns were what they usually used themselves for practicing and that there was no need to worry. Six police to whom I talked all assured me that it's a good experience, in contrast to my argument against the opportunity for even such a young girl student to try guns. The Thais and Japanese have different ideas regarding guns. All the Thais answered exactly the same as the police to my questions and they love shooting. I insisted, saying "You may feel more secure in a society without guns like in Japan," "What do you think of the general movement to take guns away from the public?"

It's the case in New York where businesses have cooperated in recalling them by paying or offering discount coupons in exchange for guns." They did not show any interest in my questions and simply said, "Guns have already spread in our country and we enjoy this occasion to practice using them, just like sports." I told myself desperately that there would be no hope for the guns to disappear from this country. In spite of my disappointment, I confess honestly that I was enthusiastic with this rare opportunity for shooting that I wouldn't have elsewhere. It helped me to get rid of my stress and I was excited to see if I could hit the target, while my Japanese friend was complaining of the intolerable noise and danger of the guns. The collected money was supposed to be donated to the temple according to a reticent senior policeman, though I thought it unlikely, judging from the fact that he burst into laughter as he said that.

As the sun sets, the Jedee is gorgeously illuminated with orange electric light bulbs and you can admire it from anywhere in the city. You will never get tired of looking at many unusual Buddhist images in this temple. You can buy a Japanese guidebook and postcards nearby. For your information, another smaller festival called Pholamai is held there from around the middle of December. Why don't you visit it, yourself?

Nakornpathom is also known as a gourmet town among the Thais. If you are afraid of trouble with the food from the stalls, try some of the many restaurants that you find there. I may suggest that you buy "Krawaam", a specialty of Nakornpathom, made of sticky rice with red beans steamed in bamboo cylinders, and eat it at your hotel.

[Translated by: Y. NAKANO]

Na Ma Sa Kram Phapathomjedee

Sayuri JARTPOTWANICH (Japan)

貫風紅KK廉57巷戰，駁概寄埃1弍扮恣嘔議仇
圭，祥嗷儉由福議鉅高尚泣、瓜各恬 Na Ma Sa Kram
Phapathomjedee 議弊順恣寄議儉滿。(屎塢議兆厚海)
勳傍 JEDEE 祥頁淋鳴佗議寄儉去。互埃 120 致膨巔
235 致。宸戰耽定匯拍 11 坵 10 晚，氏訟佩律豚 10 爺
議「Na Ma Sa Kram Phapathomjedee 准」。貫密忽昂忽
氏嗷採認繁栖維惠，耽爺勳犯綴岷磯仁。

宸匯勳由准晚訟佩議輝晚，僥伏刊彭光嶽嬉亥，
壓況犯薪參僥丕律汽了序佩嘎佩。屢嗷喘某柁繩奴嬉
亥議僥丕，勿嗷喘釘通歲賜與狹頭議筭期恬單徨、嘔
伉、塢徨栖刊議僥丕。宸匯泣屎郡阻隘密忽芙氏議洞
源岷寂議賞寄餓飽。瘁〇議嬉亥噓雜賤鮭富議僥伏
曳，厘厚散浪，咀律佻倖僥伏。密忽繁嶺勳匯岷試強，
祥錢槻湧勿氏與貧頸往才寄碇議筭碇。俛參，匯傍欺
密忽槻揖來禪謹，祥錢密忽繁勿氏揖吭。寔傍音賠風
圻咀。

壓錐寄議紡注坪才風巔律嗷喜秀議糾凸匯倖俊匯
倖，風方楚夸淚限誼岑。嶽窃貧傍嗷弍郭凸、攪世凸、
寬貧喘腫糾、樽齒糾、井蔑腫糾、尖窟糾、社醬糾、
麻凋凸、活麗糾、盲甘糾、雜糾、玲岬井蔑、參弍廿
概婢吉淚俛音嗷。謹富嗷泣妾謎議頁岬扮心音欺議瞭
附議篡繁才屁倖付議從悞。珊嗷鴨兌？賜嗷謹嶽恰徨
嗷姆瘁沢公綱人議並。匯欺絡貧，嗷揮態徨議諮概溷
佩俯謹廿白脊瓜沢高。咀律嗷海谷妃螺醬才風厖螺醬，
旺拜嗷隅湧議嘎老，俛參揭械鞭隅湧散哭。

壓宸倖勳由議准晚斬，嗷厘揭械散浪議鞞朕——
符似。嗷返囊、栖牽囊。勝砮脅頁 22 筭抄議弍伏囊一，
辛議鳩頁寔議囊。30 密銷嬉 5 囊，豐脅辛參嬉。符似
欺欺侃脅嗷，微頁壓現除議氏俛戰，油傍嗷繁喘囊姬
繁議並周窟伏，微伉宸窃繁頁倦勿氏栖膳樓，俛參淚
隈肇。宜頁壓宸倖勳由議准晚斬，耽倖魁俛脅嗷少賀
壓魁。屢宴泌緩，耽爺勿嗷方音賠議匯違偏耐喘囊符

似。匯蝕兵嗷泣妾仕，捩宸劍謹議囊劣頁倦青喘阻飽
署？耽輝潤崩惠勳鱗拏 2、3 劣囊。輝委宸劍議綱打
御少賀瘁，誼欺議拔頁咀律少賀岬扮儼膳勿喘宸囊，
霧音貧頁惜繼、拌音裡⑫議指基。微匯傍欺「勿公泌
緩嘛弍議溺頃宸劍議字氏宅？」扮，6 繁脅咄筭揖落
仇傍頁揭械挫議悶刮。厘嘉麻岑欺阻音揖議忽耐來。
諒阻風厖議密忽繁勿頁揖劍議範紛，脅指基散浪符似。
屢宴KK厖初府「佻晚云、頁範律弊順貧泌惚短嗷阻囊
劣祥氏芦遜——」「壓摘埃、偏耐嗷扮氏貧瞬試強，
催執二旬妖潤軟栖，嚙囊劣〇郡，謹窟泣熱賜賜咄
癸，參緩栖灑註囊劣。」吉秤趨勿淚隈哈軟斤圭議估筭。
峪嗷嗷自仇指基：「廝將壓芙氏貧刑青阻，淚隈洛指。
〇郡嗷宸劍議字氏頁律阻膳樓，賜〇恬律悶圍溷強議
匯棧，噴蚩嗷吩。」厘蒸李仇〇，壓宸倖忽社勳〇聞
囊劣議賈壓鉅廷記院，勿俯頁喟埃音辛孀議並。勝砮
宸劍傍，徭失勿佻鷄仇聯茅阻唱舞儿薦，圻吭心似薪
阻議朕炎。墮扮犯嶽壓峪嗷壓宸倖忽社嘉孀誼欺議悶
氏。厘議晚云繁濤噴，淚隈般鞭彥咄，錢傍裡⑬。挫
No.委鹿欺議熱恒⑭公阻注戰。潮音恬落議少賀貧望勝
砮宸劍傍，微心欺、竈落扮，狀誼謎講。

三指欺欺紡注。爺粥匯菜，Na Ma Sa Kram Phapathom-
jedee 議勳疏議井蔑菊筭，貫瞬戰脅嬌心欺。咀律宸倖
注戰嗷俯謹蓮嗷議儉No.，歌鉅扮音氏心〇。晚暮議傍
芋慕才芋伏頭壓歌維議現除嗷沢。号斤辛嬌氏弍匯泣，
Pholamai 准壓 12 坵議斬僥蝕兵，嗷佻箸議濤噴萩匯協
栖。

乏宴仄匯和，儉由壓密忽繁岷寂咀「奮瞬」遇療兆，
嗷泌緩岷謹議傾糾。微伉壓其爺糾凸氏鱗撒慮議繁，
萩匯協壓傾糾諾弦遇拷。壓塩鋼嗷儉由議壓幢徨坪井
彭鉄致才樞狹議與蒙恢 Krawaam 揮指肇勿頁揭械音危
議奮麗。

[鍬咎：葡 秀芋]

ニュージーランド便り (20) アオテアロアから

外石 弥生 (日本) <yayoi@hello.to>

【9月20日】

常識やマナーは生活習慣が違ふと異なる事が多々ありますが、日本社会のそれもここ数年でかなりの変化を遂げているように感じます。

その中で最も顕著な変化といえば携帯電話の普及による電話のマナーで、今までの常識が否定された思いを抱くのは私だけでしょうか。

帰国すると「携帯電話の番号は？」と度々聞かれ、携帯を所有していないこと、その予定もないと知ると相手は驚きます。今や国民の2人に1人が所有していると聞けば、携帯の所有は当たり前なのでしょう。

もちろん、NZ だって携帯は普及していますよ。しかしメールが普及し、電話で近況を交換し合うという行為は限りなくゼロに近い今日、電話をする回数は確実に減っています。話をしたい時は会う約束を電子メールを使って時間を調整しています。

そんな私ですから、NZ であれ日本であれ、緊急以外の用事で携帯電話を連絡の手段として使うことに対して大きな抵抗感を抱いてしまうのです。何故なら、相手は何か用事があって外にいるわけで、時速100キロのスピードで高速道路を運転中かもしれない、誰かと会っているのかもしれない等と想像すると、相手に対して失礼という思いが先にたっしまい私の方が落ち着かないのです。「今、お話ししてもよろしいですか?」「夜分、遅くすみませんが…」親から躰けられてきたマナーも陳腐の途上にあるのか、今や「いま何処?」にと変わった感じですね。

NZ では夜9時以降の電話は慎みます。中には家にも留守番電話に切り替えて、たとえ在宅でも受話器を取ることをしない家庭もあります。

暗くなってから前ぶれもなくドアの呼び鈴を鳴らす訪問者は歓迎されない。ドアを開く人も少ない。夜外出をする時は部屋の照明及びテレビはつけ放しの状態で出かける。電話の呼び鈴はあまり長く鳴らさない。周囲にその家が留守だということを知らせ

てしまう行為であるから。庭の芝生の手入れの怠慢は泥棒にもマークされる行為であり、近所から白い目で睨まれる。しばらく留守にする際は、隣の人に一声かけて、ポストにたまる新聞や郵便を預かってもらう。これらほとんどの習慣の大半は東京にも存在したものですよね。

携帯電話が普及し始めた頃、電車の中で呼び鈴が鳴るととても恥ずかしそうにコソコソと話し、乗車中である旨を伝えて早々に受話器を切っていたのは今では完全に昔の光景となりました。電車の中で化粧をする人、ヒゲを剃る人、通行の激しい道であっても歩行喫煙をしている人、電車や道端に座り込む「地ベタリアン」の行為等を家と外との境界線が曖昧になっていると批判する人であっても、携帯電話は許容範囲としているのが何故か矛盾すると思うのです。

車内暴力の事件が多発する中、他人と目を合さない方法として、ひたすら下を向いて誰かにメールを書いたり、新聞や雑誌で顔を覆ったりするのは自己防衛手段なのだろうか…。無差別テロの被害に遭遇してビルに閉じ込められる事も想定しなければならない世の中。ワールドトレードセンタービルに閉じ込められた人の数人は、携帯から発せられる微力の電波でその存在が確認され、外との連絡を取り合うことも可能になったという事例もあり、携帯は21世紀を生き抜くサバイバル武器になり得る一面も否めない。しかしながら、私はそういう意味での武器のために携帯を持つという気は起こらず、あえて映画「タイタニック」で活躍したホイッスルを選ぶでしょう。

どこに住んでも外国ボケと後ろ指を指されたくないという意識の強い私ですが、かかってきた電話も、かける電話も携帯だと落ち着けない私は、既に日本社会の生活習慣からは遠ざかっているのであらうか。

A Letter from New Zealand (20) Hello From Aotearoa

Ms. Yayoi Sotoishi (Japan)

[September 20, 2001]

Common sense and manners often vary depending upon living habits. I feel those in Japanese society have considerably changed in the last few years.

Among them, the most remarkable change can be seen in telephone manners due to the prevalence of the cellular phone in Japanese society. Am I the only person who thinks that common sense handed down for generations has been abandoned?

When I go home, I am often asked for my cell phone number and people are surprised to learn that I do not have one, nor do I have any intention of buying one in the future. Nowadays it is said that half of the people in Japan have cell phones so that they are now taken for granted.

Of course cell phones have also become widespread in New Zealand. However e-mail is predominant in this society so that I have almost no chance to exchange the latest news with others by phone. Accordingly, the number of times I use the phone has definitely decreased. When I want to meet with my friends, we arrange the time by e-mail.

Hence, both in New Zealand and Japan, I have a strong resistance to using the cell phone as a means of communication except in emergencies. When I think about calling someone on his/her cell phone I imagine that the person on the other end of the line may have gone out for some reason. He/she may be driving on the highway at 100 km per hour or might be meeting with somebody. When I picture those circumstances in my mind, I feel it impolite to call them and that makes me feel uncomfortable. Expressions such as

“May I talk to you now?” “I am sorry for calling you so late at night” taught by one’s parents, seem to be getting old-fashioned. Now what we should say is “Where are you now?”

In New Zealand we refrain from telephoning after 9:00 p.m. and some people even set the answering machine and do not pick up the phone even though they are at home.

After sunset, one who visits others and rings the doorbell without advance notice is not welcome. Actually very few people open the door in the evening. When people go out, they keep a light on and the television switched on. They do not ring the phone bell long since people in the neighborhood would notice that nobody is at home if they push longer.

In addition, people are urged to take care of their lawns. Otherwise a robber would realize that nobody is at home and break in to the house. Such carelessness will cause neighbors to give one the cold shoulder. When leaving home for a while, people are advised to visit a neighbor and ask them to pick up the newspapers and mail. We used to have these customs in Tokyo, didn’t we?

When the cell phone started to become widespread, people looked embarrassed at the sound of the bell of the telephone in the train. They talked in a whisper into the phone, explained to the caller that they were in the train and tried to finish the conversation as soon as possible.

Now these manners have completely disappeared. Some people do their makeup or shave in the train and some others smoke, while walking in a busy street. There is even a trendy Japanese word “Jibetarian,” for young people who

squat down either on the floor of the train or on the roadside doing nothing. Those young people are criticized because they cannot distinguish the boundary between home and public places. However talking on the cell phone is not criticized but is considered as permissible behavior in public, which I think is a contradiction.

Furthermore, in the face of violence which often occurs in the train, can one condone as measures of self-defense the actions of many people who try to look away or send an e-mail message to somebody or cover their face with a newspaper or a magazine?

Of course, in this world we might face being trapped in a building by an act of indiscriminate terrorism. Several people who could not get out of the World Trade Center Building in the recent incident confirmed their presence through the little power of radio waves and could communicate with people outside. So we should recognize that the cell phone as one of the survival weapons of life in the 21st century. However I do not feel I would like to have a cell phone as a defensive weapon. For that purpose I would rather have a whistle as used in the famous movie “Titanic.”

Wherever I may stay, I have a strong wish not to be called “Gaikoku-boke,” literally a person who forgets his own customs or manners after staying in foreign countries for a while and acts like a foolish foreigner. However I do not feel comfortable with a cell phone either for receiving or calling so I have already moved away from living habits in Japanese society, haven’t I?

[Translated by: Y. TSUKUDA]

仔廉声肴佚 (20) 栖徭啞天密啞袋啞

翌境 置伏 (晚云) <yayoi@hello.to>

[9 坵 20 晚]

厘湖欺貌窄晚云芙氏宸方定栖，壓芙氏械紛、撰
口伏試樓降貧廝將欺器延晒^ㄉ輝謹議仇化。

頁倦峪啞厘啞宸嶽湖狀，欺朕念葎峭瓜倦協議芙
氏械紛，屈嶄恁芋^㉑議頁喇參寄悟寄岷噸式議窮三撰
口。

輝書忽耐²繁祥啞¹峪寄悟寄，返鎮寄悟寄頁尖
低輝隼議，匯指忽，祥械械啞繁諒「低議寄悟寄頁叱
催」，厘指基傍「厘短啞寄悟寄，遇拜勿音嬉麻挾。」

輝隼音喘傍 NZ 議寄悟寄勿頁載噸演，勿喇參窮徭
啞周岷噸式，嬉窮三議肝方鳩糞受富俯謹，叱窄載富
啞繁喘窮三栖札諒混傀，啞並勸斌楚扮，喘窮徭啞周
栖札^ㄉ距屁^ㄉ埃扮寂。

音胎壓 NZ 勿挫，壓晚云勿挫，厘祥頁宸倖樓降茅
阻諸識岷並參翌，厘匯岷斤聞喘寄悟寄栖錢大岷並，
啞載寄議郡湖，宸頁採絞椿？咀葎斤圭匯協啞並嘉翌
竈，譜^ㄉ廣勿俯頁，屎壓互堀巷掬貧參扮堀 100 巷戰
壓蝕概，勿俯屎嚙蝶繁需中壓斌楚並秤吉吉杵^ㄉ嚙泌
緩窈岷訟強，斤斤圭栖傍頁載音撰嘆岷並，厘祥湖欺
音芦阻。幻銚議弼弼縮糸「^㉑壓傍三圭宴宅？」「宸
担絡議扮寂，嬉氾艇糞壓載斤音軟」吉吉撰嘆三，勿
攪阻蛭濃醒距，^㉑壓頁廝延攪阻頁「低壓陳隅！」

壓 NZ 頁絡貧⁹泣參瘁，勝楚閱室嬉窮三，勿啞又
社優繁壓社戰，拔音俊窮三遇譜協葎窮三藻返。

音湊散哭壓爺庄阻遇並杵短啞肴岑議音堀岷人，
勿載富啞繁社氏蝕壇。絡貧翌竈扮，勿匯岷泣廣菊才

蝕廣窮篇，窮三議^ㄉ落勿音氏斑万^ㄉ載消，參窰斑現
除議忽肖，岑祇徭失音壓社，優坵議課苟湊消短啞屐
尖，祥氏哈軟式裕議廣吭式忽肖議音諾。壓叫獎勿頁
啞嚙泌緩窈岷樓降。墻扮埃祇翌電扮，勿氏斤忽肖嬉
匯倖孃窄，佚^ㄉ戰議烏岷才啞周，墻扮逸脫俊迎匯和。

壓寄悟寄胡蝕兵噸式扮，壓窮概嶄窮三槽^ㄉ扮，
頁揭械壘佛議，煤落聾聾議御岑斤圭，^㉑壓壓喜核窮
概音圭宴傍三。瀧貧祥繡窮三俳僅，宸又脅廝攪阻吏
晚高尚。啞繁答得壓窮概嶄晒弃、淒鮭徨、啞七音唇
議繁佩祇貧渴^ㄉ、恫壓窮概仇中貧式祇掬^ㄉ議恫仇但
吉吉，佩葎頁蚩音陪社戰才翌順議蚩順^ㄉ，厘狀載
狸芹議頁葎焚担拔否俯廣，喘寄悟寄嬉窮三錢大。

除栖勿械械窟伏概坪羽薦並周，寄社參梓囚勸窮
徭啞周，賜烏岷喘墩崗固迨吉徭厘契寮返籽閱窰嚙
糜繁岷篇^ㄉ。③壓廝欺阻勸譜^ㄉ廣味扮氏壘囑欺訊
伽蚩徭繡繁是壓寄促岷芙氏，勿音嬌倦範寄悟寄頁
壓宸極扉膿奮芙氏嶄，伏價和肇議冷句，瓜是壓弊順坦
叟嶄仇寄促，鳩範阻真廣裏槌議窮襖嚙翌順札函錢大
勿攪辛嬌岷並阻。

徹頁，厘音氏咀緩遇軟爭揮寄悟寄岷廷遊，遇遜
坵喘壓「密鷓鶴針催」窮啞嶄「筭却」。音胎壓陳戰，
脅音坵啞繁壓瘁中岷廣傍傍頁「翌忽閣岐屏」，音胎
頁喘寄悟寄嬉栖議窮三賜頁嬉竈擊厘祥湖欺音芦。厘
貌窄廝埃宣阻晚云芙氏議伏試。

[才氣 喇濕]

カタール大使館に行って

橋浦 亜紗子 (小六) (日本)

7月30日、私はカタールについてたくさんを知ることができました。

今まで私はカタールという国を知りませんでした。けれど、たくさんを教えてもらえてとてもうれしかったです。

一番印象に残っていることが二つあります。

一つ目は服装のことで、カタールは暑く、50度くらいいってしまうと聞いて、とてもびっくりしました。だから日射病にならないように頭や首にも布を巻いているそうです。

二つ目はカタールの食べもの「デーツ」のことで、三粒食べるだけで一日分の栄養があるそうです。プルーンのような味がしました。

カタールは青森くらいの大きさだと言っていました。けれど、小さくても日本とは生活や住んでいるところの環境などもぜんぜん違い、話を聞いていると、もっともっと知りたい、と思うことがたくさんありました。

連れて行ってくださった方々、大使館でいろいろ教えてくださった方々、本当にありがとうございました。また何かの機会で見えることを楽しみにしています。

本当にありがとうございました。

A Visit to the Embassy of the State of Qatar

Asako HASHIURA (12) (Japan)

I learned so much about Qatar, by visiting its Embassy on 30th July. Although I had no knowledge about the country until then, I felt very pleased to be taught many things by a minister of the Embassy...

What I was most impressed by were the following two things. The first one was about their clothing. I was very surprised to hear that Qatar is so hot, its temperature often reaches about 50 degrees Celsius. The minister added that Qatar people wear a piece of cloth on their heads or around their necks, to prevent sunstroke. The second was about dates, which are a food of Qatar. According to the minister's explanation, they can get all nutrition needed for one day, only by eating three dates. When I tried one served there, it tasted like a prune.

The minister told us that Qatar is almost as large as Aomori Prefecture. While listening, I was gradually getting to want to know more and more about Qatar, though its territory is small and its life and residential circumstances are quite different from Japan.

Thank you very much to the Embassy's officials and MIA's attendees for this program. I am looking forward to meeting them again in the future.

[Translated by: N. NARITA]

肇触満櫛寄聞鋼阻

播屯 冉紐徨 (弑鎗) (晚云)

7 坵 3 0 晚 厘 断 肇 阻 触 满 櫛 寄 闻 钢 阻。欺 書 葎 峭 厘 斤 触 满 櫛 忽 頁 匯 倅 焚 担 忽 匆 音 岑 祇，宥 狛 寄 闻 鋼 繁 垂 公 厘 断 初 府 朔，聞 厘 斤 触 满 櫛 嗤 阻 匯 協 議 阻 盾，寔 頁 湊 互 佶 阻。公 厘 藻 和 咫 佻 恠 侮 議 嗤 屈 泣：

匯、頁 捲 升：触 满 櫛 載 犯，恠 互 梁 業 嗤 5 0 業 恠 嘔，油 阻 聞 厘 寄 郭 匯 妾，倅 參 葎 阻 音 蕪 菩，磨 断 喘 下 委 遊 何 才 庄 何 畠 脅 律 軟 栖。

屈、頁 奮 並：触 满 櫛 嗤 匯 嶽 出 今 壻 議 奮 麗，峪 勳 郭 貧 眉 腺，祥 怎 校 匯 爺 倅 議 倅 勳 議 唔 劍 攪 芸 阻。万 議 龍 祇 佻 剡 川 寅。

油 傍 触 满 櫛 圭 峪 嗤 榑 畢 椎 担 寄，欠 没 樓 降 才 晚 云 頼 畠 音 揖，壓 緩 嘉 岑 祇，音 砒 忽 社 議 寄 弑。耽 倅 忽 社 議 欠 没 樓 降、忽 秤 脅 頁 音 匯 劔 議。倅 參 厚 肇 僥 樓 万。阻 盾 万 断。

[鍬咎：墳小 宥旨]

カタール大使館を訪問して

青山 知世（小六）（日本）

私たちは、今日（7月30日）、カタール大使館という所に行ってきました。私は、大使館に行くのが初めてで、どういふ所だろうとドキドキしながら大使館に着きました。

大使館の中は、ちょっと変わった感じでした。

初めに、カタールのビデオを見ました。私はカタールのことをぜんぜん知らなかったから、とっても勉強になりました。

たとえば、ショッピングセンターもあるんだということ。私のイメージでは、砂漠だけぐらいしかないと思っていたから、少しビックリしました。

その後、カタールの国の人に質問をしました。私が一番驚いたのは、カタールでは夏休みが6月から9月までであることです。日本は7月21日からなのに……。しかも、宿題もない。いいな～。

次に、カタールの人も日本と同じような食べもの、お米を食べるんだなと思いました。

だけど本当に、いろんなことを教えてくれました。

私はこれからもいろんな国のことに興味を持ち、物知りになりたいです。

どうもありがとうございました。

A Visit to the Embassy of the State of Qatar

Tomoyo AOYAMA (12) (Japan)

We visited the Embassy of the State of Qatar on 30th, July. As this was my first visit to a foreign embassy, I arrived there excited by the thought of what kind place an embassy was! Upon entering the Embassy, I felt a little strange. At the beginning, we watched a video introducing Qatar. As I had no knowledge about Qatar, I learned a lot through this visit. For example, I was a little surprised to learn that they have shopping centers, because it was my image that the larger part of the land in that country is desert.

Then, I asked some questions of the minister of the Embassy. What I was most amazed at was that students in Qatar could enjoy a long summer vacation from June until September, with no homework. I envy them. Our summer vacation just started on July 21st.

Next, I learned that Qatar people eat rice, just as Japanese do.

The minister and staff of the embassy taught us so much about Qatar. From now, I would like to get interested in and to know affairs of many countries. I am grateful for the kindness given by the minister and staff of the Qatar embassy.

[Translated by: N. NARITA]

惠諒阻触満櫛寄聞鋼

煤表 岑弊（弑鎗）（晚云）

厘断壓7垓30晚肇阻出触満櫛忽議寄聞鋼。厘肇寄聞鋼惠諒珊頁及匯肝。頁壓焚担仇圭椿？彭彭触満櫛寄聞鋼欺阻。

壓寄聞鋼坪，万議腎賑寔議才翌中嗤泣音劔議湖状。

遍梓厘断心阻初府触満櫛忽社議村Tel頭。斤触満櫛匯泣匆音阻盾議厘栖傍，寔頁匯倅載挫議僂樓字氏。

曳泌傍：触満櫛匆嗤杭麗嶄伉吉，寔頁匯妾。壓厘議辻今嶄，万頁匯頭達達議紐町眠，挫Tel焚担匆短嗤。

壓初諒嶄，悠聞厘寄郭匯妾議頁，触満櫛慧菩邪晚惶頁椎担海，貫6垓～9垓，眉倅垓。遇晚云頁貫7垓21晚嘉蝕兵。遇拝磨断錢菩豚恬匍匆短嗤，寔頁嗤宸劔議挫並亜！

触満櫛繁，郭議挫No.匆才晚云餓音謹，匆郭致傾。初府阻光嶽光劔議斤触満櫛忽社議忽秤，聞厘嗤阻匯協議尼窟。貫緩參朔厘斤弊順光忽議忽秤嗤阻匯協議估著，匆肇序匯化議阻盾万。

掲械湖仍寄社。

[鍬咎：墳小 宥旨]

港区今昔 港区の大名墓・その7 賢崇寺 (鍋島家)

なか こういち (日本)

「怖いもの見たさ」。幽霊の次は「化け猫」のお話です。

麻布十番、ここも坂の多い街です。高台の麻布台地と、低地を流れる古川はすべて坂でつながっています。人間を惑わす動物たちが続出します。西から、狐が女に変身して出たという「狐坂」、通行人をからかった狸が出没した「狸坂」、東へ下っていくと、「化け猫」の登場です。

「賢崇寺」(鍋島家)

大黒坂の右側に二本の石柱が立つ。「興国山・賢崇寺」と刻まれている。最近、改築されたばかりの新しい石畳がゆるやかなスロープで、寺の入口へ続いています。

とても化け猫が出る雰囲気ではありません。

寺に残された古い写真を見ると、旧参道は寛文12年(1635)創建以来、330余年間続いた86段の石段だったという。左右にうっそうと大樹が茂り、陽をさえぎり、禅寺らしい静寂さが漂っていた。

この参道なら、参詣人に混じって、化け猫も石段を上り下りしたかもしれない。

現30世の住職・藤田俊孝さんに話を伺う。

「昭和30年ぐらいまでは、猫塚と称したものがあってね。猫が死ぬと、供養してやりたいと持ってくる人もいましたよ」

「化け猫が出た、という話はありませんか」

「……………」

住職は笑って答えてはくれませんでした。

賢崇寺は「化け猫騒動」で有名な佐賀35万7千石鍋島家の江戸の菩提寺です。

初代藩主の勝茂が、23歳で若死にした嫡子の忠直の菩提を弔うために建立した。

山号、寺号も開基忠直の戒名から付けられた。

「鍋島騒動」は江戸期の五大お家騒動の一つとして著名です。

藩祖・鍋島直茂は、肥前佐賀の有力大名、竜造寺氏の重臣だった。主人の政家、高房父子を補佐しながらも、藩内の実質的な権力を把握していた。

豊臣秀吉も直茂の器量を認め、独立した大名に取り立てた。

徳川の時代に入っても、佐賀領主としての地位を固めていく。

国を乗っ取られた形の竜造寺家の高房は、夫人を殺し、自殺をはかる。このときは未遂だったが、半年後に再び自殺してしまう。父の政家も病死し、竜造寺氏の嫡流は絶えた。

ほどなく佐賀に高房の亡霊が現れ、さまざまな怪異を行なったという。

直茂は高房の霊を慰めるため、寺を建て、ねんごろな供養を営んだ。亡霊は怒りを治めず、夜になると、山門から馬で抜け出した。佐賀城下を白装束で徘徊する姿を、多くの人が見たという。

慶長18年(1613)、鍋島家は幕府から肥前統治を認められ、正式に藩主の地位についた。形から見

れば、鍋島家の主家横領だが、幕府公認なので、竜造寺の一門、一族も異議を唱えるものはいなかった。

20年後、お家騒動が生じる。高房の遺子・伯庵が幕府に、竜造寺家再興の訴訟を三度も繰返し、高房の弟も訴え出た。幕府はすべてこれを無視した。

後年、この事件をもとに、さまざまな潤色が加えられ、出来たのが「化け猫騒動」です。

講談、読み物、歌舞伎、文楽、そして映画化で一般に広く知られるようになった。

いずれも竜造寺家の遺児を悲劇の主人公とみなし、怨念の象徴として化け猫が出てくる。だが最終的には化け猫は退治され、鍋島家安泰で、めでたし、めでたしになる。

「化け猫騒動」のため、賢崇寺も猫に関係がある寺と見なされたのだろう。

さて、本堂裏の広大な鍋島家菩提所を見学するには、寺側の許可が必要です。

墓域は金網のフェンスと巨樹に囲まれ、昼なお暗い。死者たちが眠る黄泉の国へ分け入る。淀んだ重い空気が身体を包みこむ。この墓所の特徴は、31基すべてが3~4メートルの巨大な五輪塔に統一されていることです。単独で建つ塔もあるが、2~4塔が一つの石造りの垣根に囲まれ、参拝用の門を構えています。門前の両側に石燈籠が配されている。

中央に位置する石垣の中に、二つの大きな五輪塔が建つ。向って左側が開基の忠直のものです。基壇に刻まれた法名が、360余年の時間を経ても、はっきり読み取れます。

住職にいただいた平面図を参考に法名を読んでいく。隣に建つのが正室、あるいは後室のものかと思っただが、170年後に死亡している8代藩主の後々室の塔でした。忠直の室のは、北側に離れた垣の中にあり、8代藩主の子女と並立しているのも謎です。

忠直の塔の背面に、ひととき高く独立して建つのが初代勝茂の五輪塔です。これも法名、没年月日がくっきりと刻まれています。

住職は勝茂の墓標の後背部に回り、深々と頭を下げ、合掌された。

板石状の墓が一直線に並んで30基、「殉死者墓」です。数基が倒れかかっていた。

「武士道というのは、死ぬことと見つけたり」の『葉隠』が生れた藩です。勝茂の死で、側近の中野木工助ら32人が追腹を切った。墓石が軟弱なためか、刻まれた文字は摩滅して判読不能です。

今はその名も残らない殉死者に手を合わせた。倒れかかった墓石に思わず手が延びる。

「危ない！触っては駄目です」

賢崇寺は第二次大戦の東京空襲で全山焼失し、この墓石群もすべて火をかぶった。焼けた墓石は弱体化し、倒壊の危機にさらされている。注意して見ると、五輪塔、石垣、参拝門の石が削れ落ち、門がすでに倒壊しているものもある。石燈籠も頭部が欠け、地上に放置されているのが目につく。危険なのでやむなく、囲いを作ったという。

南側の端に奇妙な形の墓石らしきものがある。墓域を示す石畳のみが残り、石垣も門も失われ、五輪塔の残骸が基壇の上にあるのみです。

空襲の時、焼い弾がこの墓石を直撃し、五輪塔は高熱で溶かされてしまったという。

敷石のスペースは開基や、初代藩主のものよりも広い。平面図には、7代重茂の後室・淑子の墓と書かれている。

調べてみると、この人は御三卿の田安家の藩祖・宗武の娘で、8代将軍吉宗の孫に当たる。将軍家、御三家、御三卿の女子は嫁いでも、身分は実家の格そのままであった。お付きの女中なども、給料は実家から終身配付されていた。

鍋島家からすれば主筋に当たる家の出自なので、墓域も藩主より広いのもうなずける。

この溶けた五輪塔はフェンスの外からも見えます。港区では空襲の爪痕を実見できる場所は少ない。これは残された貴重なモニュメントといえます。

荒廃が目立つ墓域の維持管理について、住職に質問してみた。港区指定史跡になっており、名称は「鍋島家の墓所」だが、戦後は同家の管理下から離れたという。

寺側では、整備縮小する計画があるらしい。近い将来、この貴重な大名墓群も失われる運命であるようです。

平成10年(1998)まで、本堂の前に、神葬式の巨大な土まんじゅう型墳墓が三基あった。明治維新時の勤王家だった10代藩主直正と正室、そして後室が埋葬者だった。今は国もとの佐賀県に移葬されてここにはありません。

この改葬時の記録は、港区教育委員会発行の『港区文化財調査集録・第5集』にくわしいので、興味ある方には一読をお勧めします。

同寺には、旧佐賀藩関係者、佐賀県出身の有名な人の墓が多い。また「二・二六事件」で、銃殺刑に処せられた青年将校など、22人の「二十二士之墓」もある。

「化け猫」には出会えなかったが、黄泉国に眠る人々と、親しく会話を交わしたひとときでした。

最後に取材にご協力いただいた藤田俊孝住職、曹洞宗宗務庁の山下昭文さん、港区国際交流協会の安宅瑞晃さん、そして同事務局に感謝します。



Look into Minato City --The Tombs of Feudal Lords (7) Kenso-ji Temple (Lord NABESHIMA)

Koichi NAKA (Japan)

Scared but you can't control your curiosity. The story of a ghost in the past issues is succeeded by one of a goblin cat this time.

The Azabu-Juban area is, like other areas in Minato City, full of slopes. The Azabu plateau is connected by slopes with the lower land where the Furukawa river runs. Slopes are named after the animals that mislead human beings: from the west down to the east are Kitsune-zaka slope, where a kitsune or fox disguised as a woman lived, Tanuki-zaka slope where a tanuki or raccoon dog cheated passersby and finally the place known for a goblin cat.

Kenso-ji Temple (Lord NABESHIMA)

A pair of rock pillars stands on the left side of Daikoku-zaka slope. The inscription reads "Kenso-ji Temple of Holy Mt. Kokoku-zan." A newly stone-paved slope ascends to the entrance of the temple. It's too bright to imagine a goblin cat there now.

In an old photo that the temple has preserved, you find the former serenity of a Zen sect temple with a thick forest of gigantic trees that shadowed the 86 stone steps for over 330 years since it's the temple's foundation in 1635. Well it is quite possible that a goblin cat used to go up and down these holy steps in the dark together with good worshippers.

Mr. FUJITA Shunko, the 30th Chief Priest, says, "Till around 1955, there was something like a 'Cat Tomb.' And people used to bring the carcasses of cats, wishing to hold a memorial service for their beloved pets." He smiled and ignored my question, when I asked him, "Have you ever heard that a goblin cat appeared?"

Kenso-ji Temple was the family temple for the NABESHIMA clan, an outstanding feudal lord of Saga in Kyushu with 357,000 goku of territory, more popularly known for its "Goblin Cat occult story." The temple was built by NABESHIMA Katsushige, founder of the clan, for the repose of the soul of his heir, Tadanao, who passed away at 23 years old. Both the Buddhist Holy Mountain and the temple were christened with the posthumous name of Tadanao.

"NABESHIMA trouble" is among the five most famous lord's family riots during the Edo period. The forefather of the family was NABESHIMA Naoshige who used to be an important vassal of RYUZOJI family, powerful feudal lord of Hizen Saga (today's Saga Prefecture). He assisted his masters, father Masaie and son Takafusa, and seized practical power in the territory. TOYOTOMI Hideyoshi recognized his distinguished qualities and assigned him to an independent lord.

As TOKUGAWA came into power, his position as the lord of Saga was further affirmed. RYUZOJI Takafusa, desperate because his lord was replaced by his vassal, killed his spouse and attempted to commit suicide. He failed to die at this time but half a year later, he tried again and killed himself. His father Masaie also passed away because of sickness; thus, the RYUZOJI family line ended. Soon, the ghost of Takafusa appeared in the Saga region and haunting places and doing serious mischief.

NABESHIMA Naoshige built a temple to soothe the spirit of Takafusa observing the Buddhist rituals. Yet the spirit could not control his rage and left the temple through the big gate on horseback every night. Many people witnessed him in white costume wandering near the castle of

Saga.

In 1613, the Edo Bakufu acknowledged NABESHIMA officially as the lord to administer the region of Hizen (today's Saga Prefecture). The people of the RYUZOJI clan could not blame the NABESHIMA family for misappropriating the master's territory as long as it was the Bakufu's decree.

Twenty years later, a series of riots started. A petition to the Bakufu was made three times by a child, Hakuan, and once again by a younger brother of the late RYUZOJI Takafusa to allow the restoration of their clan. The Bakufu totally ignored their petition. Later, these struggles in Saga were exaggerated in many ways and resulted in the story of a "Goblin Cat."

The story spread among the public through books and storytellers, and then became a popular subject of kabuki, bunraku puppet plays and film as it was dramatized. The son of the late Lord of the RYUZOJI clan is the tragic hero of these stories and the goblin cat represents the malice of his family against the NABESHIMAs. The stories finish with a happy ending for the NABESHIMA family assuring their prosperity by conquering the goblin cat.

Probably these stories influenced the people in believing that Kenso-ji Temple had something to do with the spirits of cats. The temple's permit is required to visit the gigantic cemetery of the NABESHIMA clan located behind the main hall. The area is surrounded by a metal net fence and shadowed by huge trees. I step into another world where the dead repose. Thick and sticky air overwhelms me. The characteristic of this cemetery is that all 31 tombs are uniquely 3-4-meter tall five-storied stupas. Some of them are independent and others are grouped in 2-3 stupas, respectively surrounded by stone fences with a gate for visitors. A pair of stone lanterns stands on both sides in front of the gate.

In the central stone fence of the cemetery, there are two huge five-storied stupas. The left one is for Tadanao, the first buried. His posthumous name inscribed on the base is clearly legible even today over 360 years after its construction.

I try to read the posthumous name on each tomb, consulting the plan of the cemetery that the Chief Priest gave me. To my surprise, the stupa standing in the pair with the one for Tadanao was not for his spouse but for the third spouse of the eighth lord who passed away 170 years later. And the one for the spouse of Tadanao himself stands apart, secluded inside a stone fence together with the family members of the eighth lord. The combination of these stupas has left me puzzled. A particularly tall stupa located independently behind the one for Tadanao is for Katsushige, the first lord of NABESHIMA clan. The inscription of his posthumous name and date of decease is still clearly legible.

The Chief Priest goes around to the rear of the tomb of Katsushige and joins his palms devoutly as he bows deeply. There I find 30 flat stone tombs lined up straight. They are for his vassals who followed their master to the grave. A few of them are almost falling down.

"The spirit of Samurai consists in dying." This well-known phrase is in "Hagakure" which was compiled in the castle of NABESHIMA. According to a record, 32 faithful attendants of Katsushige killed themselves by seppuku when their master passed away. The words inscribed on the grave-

stones are worn away and no longer legible. I also prayed for these samurai who have become anonymous.

“Ah, no! Don’t touch! It’s dangerous!” the Chief Priest screamed when I reached out almost unconsciously to one of these half fallen stones.

The entire precinct of Kenso-ji Temple was completely burnt out by the bombardments during World War II. These burnt gravestones were weakened and began to fall down. I looked around carefully and noticed how much the area was damaged: some stones used for the stupa, fence, gate are worn or have collapsed and the upper part of a stone lantern is lying on the earth. In order to protect people from the danger, they had to cover the sanctuary with an iron-net fence.

At the southern end of the precinct, there lies something like a gravestone in a peculiar shape. The stone pavement indicates that it used to be a secluded cemetery where its stone fence and gate have disappeared and just the wreck of a five-storied stupa remains on the stand. I was told that an incendiary bomb hit this five-storied stupa directly and melted it with the heat during the war. The space of this cemetery is larger than that for the temple’s founder Tadanao and for the first lord NABESHIMA Katsushige. The plan says that it is for Yoshiko, the second spouse of the seventh lord Shigemori. What was her prestige?

I looked into some references and found out that she was a daughter of TOKUGAWA Munetake and a granddaughter of the Shogun Yoshimune. Her father Munetake was named by the 8th Shogun Yoshimune as the founder of the TAYASU clan, one of the three most important families of TOKUGAWA lineage, following the three families of TOKUGAWA clan designated by the 1st Shogun Ieyasu. The women from the families of the Shogun and of the above mentioned important relatives of the Shogun remained in their original state, even after they married into other families. Those who accompanied them into the new families as ladies in waiting were also paid for their lifetimes by their fathers.

It would have been quite natural that the daughter of the TAYASU clan was offered a bigger area for her tomb than

that of her husband who was a kind of subject to her own father. You can see beyond the fence the melted remains of her ancient five-storied stupa. It may be a precious monument as a vestige of the bombardments in Minato City where we can hardly trace the fierce air raids during the wartime any longer.

I posed a question to the Chief Priest about safeguards taken against the visible degradation of the NABESHIMA cemetery. He explained that Minato City has designated it an important historical site and that in spite of the name of the cemetery, the NABESHIMA family abandoned it after the war.

The temple seems to be preparing to restore and reduce the cemetery. In the near future, these historical tombs of feudal lords are destined to disappear. Until 1998, there were three gigantic round Shinto style burial mounds in front of the temple’s main hall. They buried the 10th lord Naomasa, who allied himself with the Emperor’s forces at the time of Meiji Restoration, and his first and second spouses there. Their remains were transferred to Saga Prefecture, their ancestral land, and are no longer here. The details on the occasion of this transfer are recorded in the fifth issue of “data filing of cultural assets in Minato City” compiled by the Minato Board of Education.

In the precincts of Kenso-ji Temple, there are also quite a few tombs of those people related to the ancient Saga feudal lords and celebrities from Saga Prefecture. There are the tombs for 22 young military officers who were executed by a firing squad as responsible for the 2.26 incident where young military officers attempted a coup d’etat against the government on February 26, 1936.

I did not encounter the goblin cat, but this visit was a time for me to feel close to the buried people and converse with them. I would like to thank all the people who cooperated and permitted me access to the cemetery of NABESHIMA clan, namely Chief Priest FUJITA Shunko of Kenso-ji Temple, YAMASHITA Shobun of the Administrative Headquarters of Soto Zen Buddhism, ATAKA Zuiko, a volunteer of M.I.A., and the staff of M.I.A. office.

[Translated by: Y. NAKANO]



屨曝書劣 屨曝議寄兆長岷鈍詫括紡（腰戲社）

Koichi NAKA（晚云）

「心欺阻辛殿議叫廉」。唧瘦議瓜肝頁「豎劑」議絞並。

醒下噴桑、宸戰勿頁洩謹議瞬祇。送將互岷議醒下岷仇才詰仇議症采島何頁喇洩遇錢俊議。音僅嗤彥汜繫議強麗斷竈⑬。勸貫廉円、匙占晒升溺繫竈⑬議「匙梳」、老的佩繫議占徨竈短議「占梳」、岷岷和欺叫円「豎劑」議鞠魁。

詫括紡（腰戲社）

壓寄菜洩議嘔迦羨彭曾功墳庠。貧中震彭「佶忽表・詫括紡」。恣除、胡胡瓜個秀議蛸洩業議墳竣岷有欺紡議秘笈侃。奕担勿心音竈豎劑竈⑬議賑荊。

輝心欺紡戰隱藻和議症孚頭扮，象傍頁症歌祇壓錐獵12定（1635）幹秀參栖，隔恣阻330謹定寂議86零岷竣。恣嘔嚙嚙莞莞議寄峯訓誰，孳廖刺高，割諾阻踐紡違議偃床。

邪泌宸倅歌祇議三，勿俯豎劑勿詞增壓歌維議繁蛤嶄貧，和墳竣阻杏。

KK⑬販及眉噴旗廖隔儲括拭巧梓伏菽縮匯和。

「岷欺熾才眉噴定旗恣嘔，嗤阻各恣豎擅議並。豎匯棒、珊嗤繫鎖栖岷瓜工拊軟栖議。」

「頁倦嗤豎劑竈⑬議勸傍？」

廖隔、阻，短嗤指基。

詫括扮頁「豎劑彥強」嶄嗤兆議特齋35嵐7認墳腰戲社臬薩議鶯戾舛。

兜旗栗麼覆誰葎阻疾旧23楨扮慍弊議逆徨岷岷議鶯戾遇秀羨議。表催、紡催勿頁喇蝕表怕岷岷議隈兆遇軟議。

腰戲彥強頁恬葎臬薩扮豚勵寄社怛樟計岷匯遇广兆。

栗怕腰岷岷誰奚頁景念特齋議嗤糞薦岷寄兆霜彥紡筵議嶷骸。麼匯円拊特麼繫頁社、互型幻徨匯円嗽嫻燐阻栗坪糞岷來議幡薦。

戟骸偃耳勿浜紛岷誰議嘉孤，旺戾偉麼葎鏡羨議寄兆。

軸間欺阻蟻寒扮旗，麼恬葎特齋糟麼議仇了挽隼糧耕。

瓜館阻幡彝蓑議霜彥紡社議互型矩阻曇徨，二夕徭姬，緩肝徭姬隆膜，徽磯定朔嗽徭姬阻。幻牌頁社勿押棒，霜彥紡筵蒸阻朔旗。

勸傍音消麼特齋竈⑬互型議蘭瘦，遇拜窟伏阻光嶽光劔議謎講並秤。

岷誰葎阻硯凌互型議蘭瘦，秀彥紡注，旺娼舞議工拊。徽蘭瘦旺短嗤岷連鎬賑，遇拜匯欺絡貧，祥楠瀧貫表壇用竈，勸傍嗤載謹繫心需附彭易世吐參器特齋廓和議秤佗。

伯海18定（1613），腰戲社議景念由岷誼欺鳥軒議範辛，屎塤葎販阻麼議仇了。貫佗塤貧栖心，腰戲社頁歪楊阻麼繫社，徽喇器誼欺鳥軒議巷範，霜彥紡議搥匯枕壇、搥匯怛勿短繫孀戾舛吟咏。

20定期，窟伏社怛樟計。互型議準徨荻瞞奚郡齟眉肝KK鳥軒戾竈齟佶霜彥紡社議盆墨。徽鳥軒賴畠短嚙尖嫁。

謹富定期，功象宸倅並周，嗽瓜繫斷紗參光嶽光

劔議籌半，喇緩恢伏議頁「豎劑彥強」。

喇得慕、響麗、梧玲漆、直甜老、參式窮嗽晒遇瓜匯違來仇鴻刑俛岑。

器頁畠脅委霜彥紡社議準徨輝恬丑丞議麼繁巷，恬葎垵劑議Tel尤竈⑬阻豎劑。隼遇恣嶮豎劑珊頁瓜聯註，腰戲社誼參葎遜。辛浪、辛浪。

喇器「豎劑彥強」，咀緩詫括紡勿瓜心恬頁才豎嗤購議紡注。

勸歌鉞屎去朔議寄頭腰戲社鶯戾紡倅勸誼欺紡注圭中議俯辛。

長囉瓜鏈某利議佞生才歌爺寄峯律彭，軸間頁易爺勿載附庄。棒、斷取佃仇序秘附蝦仇軒葎連。徑儉椎唯差、柿嶷議腎賑委附悶脅淫壓阻戰中。宸倅長仇議蒙尤頁：31恙長畠何瓜由匯秀攪3~4致互議賞寄議勵態滿。勿嗤汽鏡秀議滿、徽耽2~4恙滿祥瑞匯倅墳慶議茵能律貧，珊俐秀阻歌維喘議壇。壓壇念議曾迦塘崔彭墳菊。

壓了器嶄仇議墳能嶄，秀嗤曾恙寄議勵態滿。念圭恣迦議頁蝕表怕嶮岷議。震壓長兇恙貧議隈兆軸間厮將拍360謹定議扮高挽嬌心誼載賠羞。

返隔廖隔公議岷中夕恬歌深肇匯匯斤孚，參葎嶮岷都円秀議勵態滿頁麼議屎型賜頁陶型議。徽拔頁170定期棒肇議及8旗栗麼議及眉型議滿。嶮岷議屎型議滿壓白迦宜議熟垵議佞生嶄，遇拜嚙及8旗栗麼議徭徊旺羨彭議頁葎稚。

壓嶮岷議滿議虛中，嗤匯恙鏡羨秀彥議蒙艷互議頁兜旗栗麼覆誰議勵態滿。宸恙滿勿賠萱仇震影隈兆式肇陸定坵晚。

廖隔汎欺覆誰議長窺議嘘朔，栽嫻、侮侮仇章阻巧。

30恙墳医彝議電攪匯訊岷^キ，椎頁「儂棒、長」。嗤叱恙叱窄勸宜繭阻。

宸倅栗頁「附葎冷平祇淚俛侶上」議「匍咨」（慕兆）議貴伏仇。咀葎覆誰議棒，壓麼恣嘔議牌佚嶄勸直垢廟吉32繫葎彥膜瓜遇析弦徭姬。辛孀頁喇器長墳防罷議圻咀，震議窺獵厮張註，淚隈掩範。

KK泌書錢兆忖脅短嗤藻和議儂棒、栽嫻崑吭。輝心欺Tel頁勸宜繭議長墳扮音徭伏仇阜肇喧。

「裡⑫！音勸當」。

詫括紡壓及屈肝寄媾議叫獎腎弄扮畠表瓜付支，宸、長墳蛤勿賴畠瓜諮頭固。瓜伴付朔議長墳厮極晒，拜中匝宜繭議裡字。勸廣吭心匯和宴岑，勵態滿、墳能、歌維壇貧議墳遊厮雲綢，壇勿嗤厮將宜撒議。珊心欺墳菊增議遊何哩頭慧懸仇貧。象傍咀葎裡⑫，俛參短一隈嘉恬阻律佞生。

壓摑迦議極遊嗤謎虫佗彝議長墳，峪複和硬幣長仇議墳竣，墳能才壇脅厮拏肇，峪嗤勵態滿議火此珊壓長兇恙貧。

象傍腎弄扮，伴付起岷俊似嶄宸恙長墳，勵態滿壓互梁和瓜匪晒阻。

嗤恙仇兇墳議腎寂曳蝕表怕才兜旗栗麼議珊勸寄，壓岷中夕貧巫彭及7旗嶷誰議朔型募徨岷長。

輝將臥棚，宸倅繫頁眉壳岷匯弥葎社議栗怕忱冷議溺隅，嗽頁及8旗繡囁耳忱議枉溺。拍肇繡囁社（蟻

寒社)、四眉社(蟻寒岷狼眉寄社)、四眉壳(硬扮互
零郊兆)議溺隔軸間竈灼, 屮附芸珊隱隔壓弟社扮議
仇了。捲別議溺突吉勿喇屮弟社蚩窟公阻嶮附議垢熱。

壓腰戲社心栖, 喇器慢頁兆壇酷怛社優議竈附,
咀緩長仇曳栗麼議寄匆頁辛參尖盾議。

宸恙匪晒阻議勵態滿貫律能議翌中匆孀心欺, 壓
雇曝, 孀校朕驚欺腎弄裁治議魁仵載富。宸辛參傍頁
瓜隱藻和議酷嶮議準治。

嗤購長仇議略隔砢尖、KK廖隔儂諒阻匯和, 宸戰
廝攪律雇曝岷協硬治, 兆各頁「腰戲社岷長仇」, 徽
油傍媯朔廝貫腰戲社議砢尖和用宣竈栖。

壓紡注圭中, 挫Tel嗤柴血勤抹弑屁姥。壓音消議
繡栖, 宸倖寇酷議寄兆長蛤貌窄繡中匪聯弘議凋溼。

欺岷攪 10 定 (1998) 律峭, 壓屎去念, 嗤阻眉恙

舞壤摒議賞寄輿鐸遊侏議詣長。托壤六頁芋嶮略仟扮
議輩藍社及 10 旗栗麼岷屎才麼議屎型式陶型。⑬廝
瓜卞壤欺麼議怕汐恃齋⑮, 咀律壓宸隅廝心音欺。

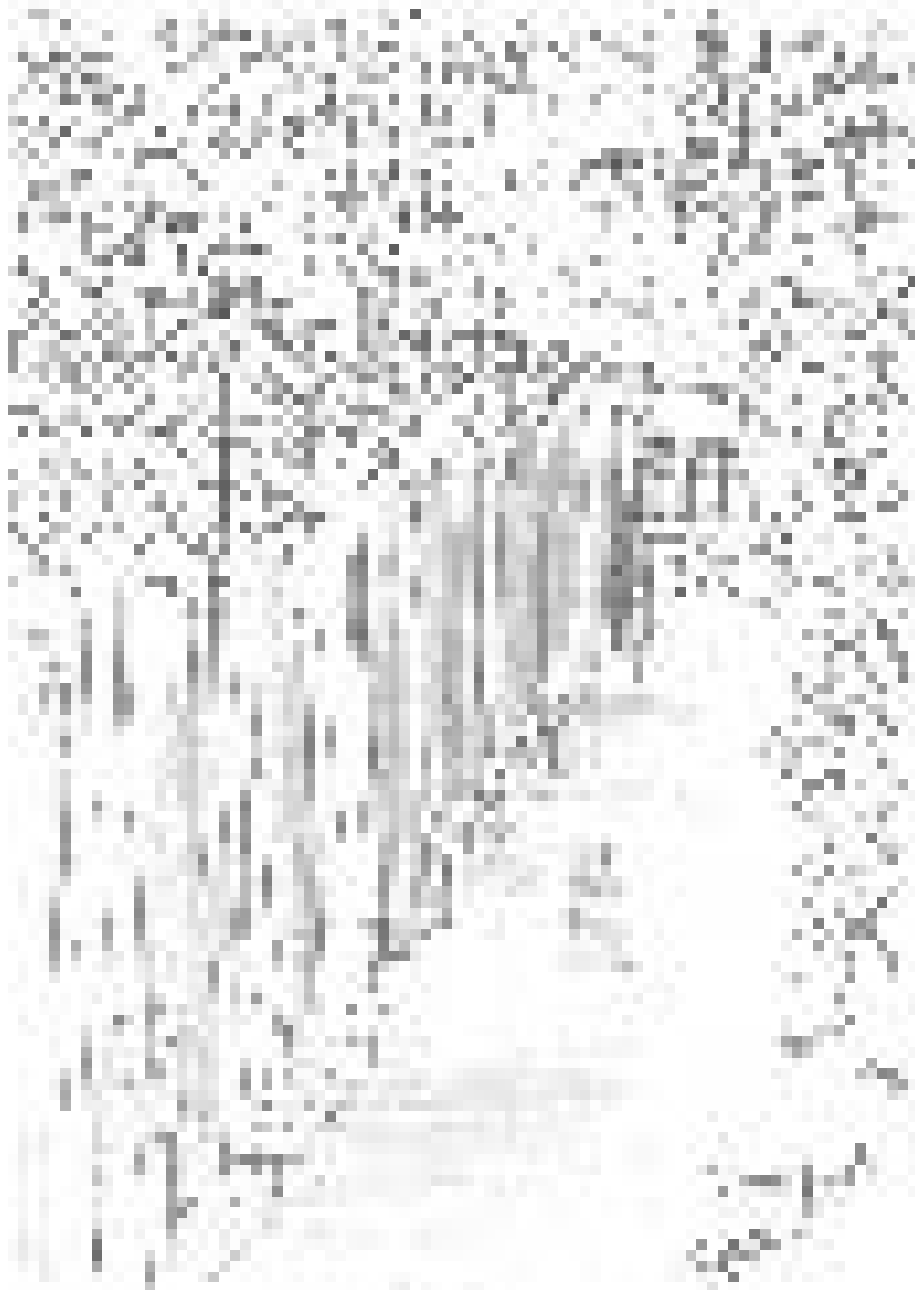
宸肝個壤扮議芝村, 壓雇曝縮圍溜垂氏窟佩議「雇
曝獵晒夏距臥鹿村·及勵鹿」斬𠄎龔芝墮彭, 醜嗤估
箸議繁音徑匯響。

壓云紡, 症恃齋栗議塙揮六, 恃齋⑮竈附議嗤兆
繁議長載謹, 總翌珊嗤壓「屈·屈鎗並周」斬瓜登侃
棒侈議煤定繡丕吉 22 繁議「屈噴屈平岷長」。

埋隼短孀囑欺「豎劑」, 徽拔才壓附蝦仇軒芦連議
繁斷序佩阻頭震“牌俳議住霧”。

恣朔KK」廁寡惠議儲弥拭巧廖隔、蝦挾忱忱曆愈
議表和蠟獵梓伏、雇曝忽縞住送」氏議芦姪誹士梓伏
式揖並曆蕉燕幣湖仍。

[鐵咎：嫖 ϕ 肴]



バンコクの四方八方 (9) 微笑の国タイからタイのオバケを代々木で見た!?

岩船 雅美 (日本)

【8月30日記】

タイのオバケにはたくさん種類があり、その中でもポピュラーなのが、女の生首に背骨と内臓がくっついて徘徊する、という奇怪なオバケでグラスー (grasww) という。

まさかそれが日本にもいるとは思わなかった。しかも代々木である。もっと詳しく言うと代々木オリンピックセンターの宿泊棟である。

少しばかり時計の針を戻すことにする。

この8月中旬に、僕はバンコクのスラムに住む小学生10名を引率して岩手県花巻市を訪れた。花巻青年会議所が主催するイーハトーブ・インターナショナル・ジュニア・スクールというイベントに招待されたのである。ホームステイや日本の小学生との合同キャンプなどの活動を通じて日本とタイの交流を図ろうという目的である。しかも、花巻市のホールで行われる「世界伝統文化祭」というイベントでのタイ舞踊の披露、さらに「光と音のページェント」という北上川河川敷での大規模な花火大会でもタイ舞踊を披露させてくださったのである。

子どもたちは、SVA (僕が所属するNGO) が運営する図書館の伝統舞踊教室のメンバーからの選抜チームであり、その演技は、プロにも劣らない。今回、数万人もの花火見物客を目の前にしても、子どもたちは臆することなく見事に演技をやったのけ、空も割れんばかりの拍手をいただいた。また、世界伝統文化祭でのタイ舞踊は地元紙にも大きくとりあげられ、子どもたちの喜びようっていったらなかった。

ホームステイやキャンプでも、面白いことはたくさんあったのだが、ここでは割愛して、話をオバケに進めよう。

異文化発見の驚きに満ち満ちた日本滞在中も最終日となり、タイ子どもチーム一行は、オリンピックセンターに投宿した。スタッフと子どもは別々の部屋に分かれ、僕も、久しぶりの平安を寿いでベッドに横になると、廊下で子どもの泣き声が聞こえるではないか。何ごとかと思ってドアを開けると、

「フネさん、オバケがいるよう……………」と、子どもが10人そろってめそめそ泣きながら入ってきた。なんでも、ノックの音がするのでドアを開けてみると誰もいない、おかしいなと思ってドアをしめると、またノックの音がした、これは。くだんのグラスーに違いない、というのである。そこで僕は「そんなものいません。部屋に帰って寝なさい」と言って子どもたちを追い返し、ドアを閉めた。しばらくは外でザワザワしていたが、やがて静かになった。やれやれと思い電灯を消すと、今度は更に大きな泣き声に加えて廊下を走る足音が響いてきた。僕がてんで相手にしないので、今度は同行のタイ人女性スタッフ、ネン (Nieng) の部屋に行ったのだ。「オバケがいるよう!!」と涙ながらの訴えが聞こえてくる。さて行ってみると、ネンは困惑の笑顔であった。こういうときの笑顔というのは、日タイ共通の反応である。しょうがないので、男の子3人は僕の部屋、女の子7人は女性スタッフの部屋で寝かせることにした。僕の部屋のベッドは完全に占拠され、しかも魔除けのため明かりはこうこうと点けたままである。僕がいなくなるとオバケがやってくると訴えるので、外に出ることもできない。結局、子どもが寝ついたのは午前1時過ぎであった。僕は、子ども用の部屋で寝ることにしたが、子どもたちが起きるんじゃないかと気になってぜんぜん寝つけない。そうこうしているうちに夜が明けてしまった。

翌日の僕は、たいそうな寝不足である。飛行機に乗り込み、やれやれ一眠りしよう、と思ったら、子どもが不安そうな表情で聞いてきた。

「…………… この飛行機にはオバケはいないよね?」

それにしても、僕は出入国管理局に提言したい。オバケの本邦入国は断じて水際で阻止すべきである。

ところで、グラスーの男性版もありまして、グラハン (grahang) というそうです。羽があって空を飛べるとのこと。きっと、子どもが飛行機の中で怖がっていたのはグラハンの方でしょう。

All Directions of Bangkok (9) From Thailand - A Pleasing Country
I Saw a Thai Spook in Yoyogi!?!?

Masami IWAFUNE (Japan)

[August 30, 2001]

There are a whole variety of spooks and ghosts in Thai folklore. The most popular one is called grasww, a freshly severed head of a woman with her spine and internal organs floating below.

I certainly had not expected to meet one in Japan. Least of all, in the accommodations of Yoyogi Olympic Center.

But I'm getting ahead of myself... let me turn back the hands of time.

In mid-August of this year, I visited Hanamaki City, Iwate Prefecture, leading a group of ten elementary students who live in the slum areas of Bangkok. Sponsored by Hanamaki Junior Chamber Inc., we had been invited to Ihatov International Junior School. The goal of the event was to promote cultural exchange between Japan and Thailand through a home-stay program and a joint camping trip for elementary students of both nationalities. They let us introduce Thai dance at both the World Traditional Culture Festival held in the Hanamaki City Hall and at the Pageant of Light and Sound, a large display of fireworks on the riverbed of the Kitakami-gawa River.

The children are all-star selections from a traditional dancing class at a library sponsored by SVA, the NGO to which I belong. Their performance is as good as the professionals'. Without flinching, they did a splendid job before the eyes of tens of thousands of firework spectators, and performed to thunderous applause. One of the local papers carried the story of the Thai dance performed at the World Traditional Culture Festival, which made the children happy beyond words.

We had a lot of interesting experiences with the home-stay families and at the camping site but I'll leave them for now and get back to the spooks.

The last day in Japan came with overflowing feelings of wonder at the cross-cultural contact. The team was put up at the accommodations of the Yoyogi Olympic Center. Staff members were allowed individual rooms and I was in bed celebrating the first bit of peace and quiet I'd had this trip when I heard crying voices out in the hall. What

could the noise be? I ran to see what was the matter. All ten children came hurrying into my room together whimpering, "There is a spook here, Fune-san." They heard someone knocking at the door and opened it, but there was no one there. They closed the door and AGAIN they heard knocking. "It must be the grasww," they whispered. "No way," I said, "It can't be a grasww. Go to sleep in your rooms" and I pushed them out of my room, closing the door. After buzzing around for a while they finally went quiet. I gave a sigh of relief and turned off my switch. And guess what? The hall echoed again with their footsteps and still louder cries. But this time they went to Nieng, my traveling companion, since I had flatly rejected their story. "There are spooks haunting outside!!" cried appealing voices laced with tears. I went to Nieng's room and found her wearing a perplexed smile. Thai and Japanese have something in common with this type of smiling. Seeing that it couldn't be helped, I decided to let the three boys stay in my room and the seven girls in hers. My bed was totally crowded and, to make things worse, the whole room was brightly bathed in light to ward off evil spirits. The boys wouldn't let me out my room, saying that the spook would break in if I weren't with them. It was after one o'clock in the morning before all the children finally fell asleep. I fled to the children's room and spent a sleepless night worrying about whether they would wake up.

Next day, I was completely starved for sleep. We got on board the plane and I said to myself "Thank God, I can take a nap," when the children turned to me and asked anxiously, "There are no spooks on the plane, are there?"

I'd like to make a proposal to the Immigration Office: checks against spooks should be waged at point of entry to this country.

By the way, there is a male version of the grasww, it's called the grahang. They say it has wings and can fly in the sky. Perhaps it was the grahang that the children were afraid of in the plane?

[Translated by: M. Kawashima]

壓旗旗直心欺阻密忽劑娼！？

卷 回胆 (晚)

[8 坵 30 晚]

密忽議劑娼嗤載謹嶽， 屨斬曳熟械需議頁
 匪倖伏彭溺繁遊， 叙錢彭執塑糠才坪壘， 欺
 侃慧鬼議謎講議劑娼， 慢議兆忖出硬性某
 (grasww)。短忽欺慢肖隼氏竈⑬壓晚云， 遇
 拜珊頁壓旗旗直！醬悶泣傍頁壓旗旗直安爽
 騰針斬伉議凡普促戰。

斑匪斷繡扮嶝偉指欺書定議 8 坵。

書定 8 坵， 匪揮彭肖廖器風紅洞耐曝議 10
 兆忖僥伏惠諒阻 返⑮議雜壤偏， 呀劍歌紗
 雜壤偏模定幸麼一議“lhatov International
 Junior School”試強， 朕議頁宥狍壓晚云繁
 社戰廖凡旺嚙晚云議忖僥伏慌揖歌紗勸唔吉
 試強， 陷序曾忽議住送。密忽議頃徨斷壓雜
 壤偏偏耐寄愈訟佩議“弊順勸由獵晒准”貧
 燕處阻密忽玲妓， 壓曰貧寒采幹訟佩議“高
 嚙咄議其爺絡氏”——寄号序勿諮絡氏貧勿
 燕處阻密忽玲妓。

宸又頃徨頁貫 SVA (匪俚壓議 NGO) 將唔
 砢尖議夕慕鋼議勸由玲妓僥樓萎戰僉偉竈栖
 議， 燕處室派音補器靡匍處垂。宸肝壓鉞浜
 勿諮議方嵐鉞嶼中念， 頃徨斷勿坐音排魁，
 恂阻竈弼議燕處， 攪誼阻跡貯違議嫻路。輝
 仇烏岷葎弊順勸由獵晒准貧議密忽玲妓恬阻
 寄嫖繩皇議烏擬， 頃徨斷議互估匠隅祥艷戾阻。

廖壓晚云繁社戰議扮昨才勸唔議扮昨勿窟
 伏阻俯謹嗤箸議並秤， 壓緩般祐護握， 珊頁
 栖傍傍劑娼議並杏。

壓割諾阻斤翌忽獵晒議妾謎窟⑯議晚云岷
 佩議恂朔匪爺， 密忽議頃徨斷和藹壓安爽騰
 針斬伉。垢恬繁垂才頃徨斷蚩艷鋒壓音揖議
 型寂， 匪勿壓消離阻議芦床岷才斬棉壓阻寬
 貧。祥壓宸扮， 恂脆戰勸栖阻頃徨斷議凶路。

匪匪嬉蝕型壇， 10 倖頃徨祥円凶円恂序匪議
 型寂， 磨斷傍油欺阻巴壇落， 蝕壇匪心拔豐
 勿短嗤， 辛匪購貧壇嗽說軟阻巴壇落， 宸刃
 協頁勸傍斬議劑娼硬性某。匪斤磨斷傍：“功
 云音氏嗤椎嶽叫廉， 脅指型寂鋒狀杏。”委
 頃徨斷枯指肇參朔， 匪購貧阻型壇。油欺頃
 徨斷壓翌中獐獐江江阻匪氏隅， 嗽志齟阻遞
 床。匪穗阻筈賑， 委菊購阻。

融隼， 喇恂脆戰勸栖阻厚寄議凶路， 購斜
 樽彭怒強議落咄。寄古頁咀葎匪胡嘉短嗤砢
 磨斷議並， 宸指怒欺揖佩議密忽溺垢恬繁垂
 咄遞 (Nieng) 議型寂肇阻。匪油欺頃徨斷揮
 彭凶路傍：“嗤劑娼！！”

匪狍肇匪心， 咄遞議途貧屎檢⑰竈是雌議
 否。寄古壓宸嶽扮昨繁議燕秤音蚩晚云才
 密忽， 脅頁匪劍議。短一隈， 匪斷置協， 3
 倖規頃鋒壓匪議型寂， 7 倖溺頃鋒壓溺垢恬
 繁垂議型寂。匪型寂議寬賴畠瓜媪糟阻， 遇
 拜葎阻殿劑娼栖， 匪岷泣彭菊：頃徨斷珊傍
 匪匪音壓， 劑娼祥氏栖， 俚參匪勿音孀竈肇。
 頃徨斷欺壺貧 1 泣謹嘉鋒彭阻。匪欺磨斷議
 型寂肇鋒， 徽咀葎毅伉磨斷氏軟栖， 匪岷勿
 短嗤鋒挫。音岑音狀， 爺疏阻。

及屈爺， 匪湖欺阻冢嶷議鋒蓄音恂。貧阻
 敬字匪忽：宸指惠麻辛參挫挫鋒匪狀阻杏，
 辛頁頃徨斷嗽揮彭音芦議燕秤諒匪：“宸敬
 字貧短嗤劑娼杏？”

匪忽公竈秘廠砢尖蕉戾倖秀咏：呀乎釈置
 怦峭翌忽劑娼秘廠。

乏宴傍匪鞘， 珊嗤才硬性某奉器揖窃議規
 來劑娼， 油傍出硬性良 (grahang)， 磨嗤棍
 芋辛參壓爺貧敬栖敬肇， 浩柴頃徨斷壓敬字
 貧毅伉議頁宸倖硬性良杏。

[淺 獵層]

世界に共通の価値観（バリュー）の導入をー米国同時多発テロに思うー

清澤 暢人（日本）

10月9日から9日間、夫婦でドイツ、チェコなどヨーロッパ中欧4カ国を旅してきた。出発前日にアメリカ・イギリス軍によるアフガニスタンテロ施設への空爆が開始され、何となく騒然とした雰囲気の中であったが、一旦ヨーロッパに入ってしまうと入国審査や荷物検査が今までよりも若干厳しいかなといったくらいで特段のことはなく、のんびりと観光旅行を楽しむことができた。ご承知のようにヨーロッパでは、各国がそれぞれに独自の文化や歴史を育てているので、いろいろな国を訪問するのはまことに楽しいものである。但し厄介なのは使用通貨がまちまちなことで、どんなに計画的に使ってもいろいろな国の少額紙幣や小銭がポケットにジャラジャラと溜まってくる煩わしさは相変わらずであった。しかしそれもあと数カ月の辛抱である。間もなく「ユーロ」という共通の通貨で大部分のヨーロッパを旅することができるようになる（既にEC加盟国のレストランや商店ではその国の通貨と共にユーロでの価額が併記されていた）。

さて、今回の同時多発テロ事件についての考えを述べてみたい。今回の事件は、私にとってまたいへん衝撃的であった。特にショックを受けたのはテロが自殺行為によって行われたことである。世界の人間が持っている「価値観（バリュー）」にこれほどまでの違いがあるのかと改めて愕然とした。世界のほとんどの人たちにとって、今回の事件は何の罪もない多くの民間人を巻き添えにしたまことに憎むべきテロ行為である。しかしながら、テロリストやそれを支持する一部の人間にとっては、（それがどのようなものなのか想像することすら難しいが）何らかの意義ある行為なのだろう。さもなければ人間が喜んで自らの命を差し出すはずがない。

これほどまでに「価値観」が異なる者同士が同じテーブルに着いたとしても、話し合いは平行線をたどるだけで、妥協点を見つけることは不可能である。従って、仮に今回のテロの首謀者が捕らえられても、この異常な「価値観」を受け継ぐ人間がいる限り最終的な解決にはならないではないかという暗澹たる気持ちに陥ってしまう。

世界中の人間が、同じ「価値観」の下で生活し、行動することは不可能だろうか？「価値観」は、その人が親や先生から受けた教育、育った環境、経済状況、民族の伝統や風習、さらには信奉する宗教など多くの要因によって決まるものであり、いわばその人の人格そのものである。従って、成人してからその人の「価値観」を変えることは容易でない。世

界中の人間が同じような価値観を持つという理想を達成するためには、まず子どもの頃から同じ「価値観」に準拠した教育を受けることから始めなければならない。但し、この場合注意しなければならないのは、勝者（あるいは強者）が自分達の「価値観」を敗者（あるいは弱者）に一方向的に押しつけたのでは、決してうまくいかないことである。我々はこのことを過去の多くの歴史から学んでいる。

それでは、世界の人々が等しく受け入れることのできる共通的・普遍的な「価値観（バリュー）」は存在するものだろうか？それを肯定するヒントがある。私はこれを、現在MIAプロジェクトとしてボランティアグループで翻訳作業を行っているLVEPの教材から学んだ。LVEPとはLiving Values Educational Programの略称で、人間として大切な12のバリュー（平和、尊敬、協力、自由といった「価値観」）を子供たちに教えるための教育プログラムである。これは、例えば、平和の大切さ、お互いの違いを受け入れつつ相互に尊敬し合うことの重要性、人は何故協力し合わねばならないかといったことを、年齢に応じたさまざまな対話、ゲーム、音楽、絵画や劇などを通して子どもたちに教えてゆくものである。また親たちが子どもをどう導き、子どもとどう接するべきかについての指針も示されている。

このプログラムの特徴は、特定の国あるいは特定の文化における「価値観」ではないことである。これは、国連創立50周年記念行事として行われた研究開発を基に、約20カ国の教師たちが一同に会して議論し、国連児童憲章などを参考にして作り上げたものである。従って、これは宗教や民族に関係なく、世界のどの国にでも受け入れられる共通の「価値観」であると考えられる。現に、このプログラムはユネスコ（国連教育科学文化機関）の支援の下、ユニセフ（国連児童基金）等がスポンサーとなって、世界的規模で展開されつつあり、既に64カ国において1800を超えるサイトで使用されて実績をあげているという。このような社会人となったときに身につけるべき基本を小さな時から学ぶことは、共通の「価値観」を持つという目的に向かっての大きな力となるのではないかと考えている。

現在の複雑多岐にわたる世界情勢を考えると、世界が共通の「価値観」を持つなんて単なる夢物語に過ぎないという指摘もあろう。でも思い出して欲しい。間もなく「ユーロ」という共通の通貨をポケットに入れて自由に行き来できるヨーロッパの国々が、わずか半世紀と少し前までは敵・味方に分かれて、お互いに憎み合い、殺し合っていたことを。人間は変わりうるのだと私は信じている。

Call for Respect for Common Values in the World
- Thinking over the terrorism that took place in the U.S. -

Nobuhito KIYOSAWA (Japan)

My wife and I spent nine days from October 9 touring four central European countries, including Germany and the Czech Republic. Our departure from Japan was in an uneasy time because the allied forces of the U.S. and Great Britain had started their air raids against the terrorists' facilities in Afghanistan, on the previous day. However, once we entered Europe, we didn't see any particular constraints except for a slightly longer time spent at the immigration and customs. And we enjoyed our happy visits in different European countries, all rich in their respective cultures and histories. Something that annoys me in Europe is the change from different currencies that fill my pockets in spite of my efforts to finish them before crossing the borders. But we shall be free from them in a few months. Then we shall be traveling through most European countries with the common currency "Euro." Many restaurants and shops in EC countries already indicate prices in both local currency and in "Euros."

The series of terrorist incidents that took place in the U.S. shocked me a great deal. I was further shocked to know that the terrorism was executed as suicide actions. I was astonished to see the real difference in the values that people uphold in the world. The incident was an abomination, involving innocent civilian victims. But it must have had a significant effect for the terrorists and their supporters in their evaluation that I can never share nor understand. Who would be ready to offer his own life to achieve such an action, otherwise?

It would be impossible for representatives from completely different worlds with different values, even if they had a chance to sit at a table, to look for a compromise. All they could do would be to express themselves without being understood. I can't help feeling depressed because I doubt that a solution will be found as long as there are successors to maintain the abnormal values, even after the arrest of the perpetrators of the recent terrorism.

Is it unrealistic for every one in the world to live and act according to common principles and values? Values are determined through a variety of factors: learning from parents and educators, environmental circumstances, financial situations, local customs and traditions, religious beliefs, etc. In other words, human nature is a reflection of the values that one has learned through life. Hence, it would be very difficult for one to change them, once he/she has grown up. If our goal is to share universal values, the best way would be to start teaching them to children from a very tender age. Something very important that we have to consider is that we should not impose values dominant among the

conquerors or powerful people on defeated or weaker people. Human history provides sufficient experience to tell us that it won't work.

Then, do we have any way to identify common and universal values? I would say, "Yes!" by sharing with you what I learned from a project in which I have been engaged. A volunteer group of M.I.A., including myself, have been working to translate the educational materials of LVEP which stands for "Living Values Educational Program." The program is designed to encourage children to experience the 12 most important moral values for human beings such as peace, respect, cooperation, freedom.... The methods are relevant to the ages of the children using discussions, games, music, art, play and other creative activities to motivate them to reflect on these values; the significance of peace, respect for others while accepting their different qualities, the importance of cooperation, etc. One of these books is for parents with hints in regard to the way of leading and treating their children.

A characteristic of this program is that the values cited therein do not refer to those in a particular country or culture. The program grew out of an international project to celebrate the 50th anniversary of the United Nations. Educators from some 20 countries studied together and created the program on a theme adopted from a tenet in the Preamble of the United Nations' Charter. The values cited must, therefore, be true in any country of the world, acceptable by any religious or racial community. Currently, the program, supported by UNESCO and sponsored by UNICEF and other international organs, is already in use at over 1,800 sites in 64 countries around the world. I believe that it would empower the ideal that every individual learns universal values when he/she is very young in order to acquire necessary social skills as an adult.

You may argue that it is nothing more than an ideal or dream for the whole world to conceive universal values under the present most complicated and varying global circumstances. But I would like you to recall what I mentioned earlier. The European countries where we shall soon be able to go around freely with a single currency, the Euro, in our pockets were enemies-one against another-hating and killing each other until just over half a century ago.

I firmly believe that human beings are capable of change.

[Translated by: Y. NAKANO]

哈序弊順慌宥議勺峙鉞 —貫胆忽訊伽試強欺議—

賠夾 芥繁 (晚云)

10 坵 9 晚軟 9 爺戰，厘断健絃欺蟻忽、楯針吉唾佩阻匯筭。竈窟念胆晒囑錦蝕兵坂姆唾源差訊伽蚩徨譜仏、賑荊彥隼。音狍序秘天巖岷朔，茅秘忽蕪臥才佩川殊臥曳參吏不律豕鯉岷翌，短嗟載寄延晒，唾佩載啼嘎徭壓。寄社脅岑祇，天巖光忽嗟光徭鏡蒙議獵晒、煽霧，惠諒光忽頁匯寄赤並。徽醒軍議頁光塢光劔議齒衛，淚胎低奕担柴皿，筭期戰惠頁持和匯均光忽議弋驅岷衛才啣衛。音狍，宸倖軍蔦峪倭壅般叱倖坵，音消祥辛參聞喘天坏，壓寄何蚩天巖忽社唾佩阻 (天慌悶揖男忽議架愈、斌糾脅廝揖扮炎幣云忽齒衛才天坏勺鯉)。

霧霧厘斤緩肝訊伽試強議欺隈。宸並周斤厘勿頁載寄喝似，蒙艷頁宸嶽徭姬來佩強。厘壅肝範紛欺：弊貧議繁隔嗟彭必緩音揖議勺峙鉞。貫弊順貧寄謹方繁心栖，聯復阻必緩岷謹議淚梗耐寂繁平，載①隼頁匯軟辛奎議訊伽並周。訊伽蚩徨式另隔心栖嗽頁奕劔匯嶽嗟吭呐議佩葎椿 (載佃_{TeL})？倦夸繁音氏崗圻僕竈徭失議伏凋。

勺峙鉞必緩音揖議繁軸聞律恫壓揖匯嫖且徨霧登，勿峪氏頁岷佩_キ，音辛孀孀欺札_ヲ斑化議匯泣。軸宴塵廖阻緩肝議恂雀事遍，峪勸珊嗟繁写覺宸嶽勺峙鉞，諒翔祥音孀功云盾疊。欺欺緩，音喇誼伉秤庄記。

弊順貧議繁音辛孀參_ヲ揖議勺峙鉞伏試才佩強宅？勺峙鉞頁云繁貫幻銚、縮弗議縮圍、伏海棧廠、将部彝趨、耐怛勸由嚙欠没、珊嗟佚剽忱縮吉謹嶽咀殆疊協議，勿祥頁繁鯉。攪繁岷朔，勸個延勺峙鉞祥音否叟阻。勸器欺弊順貧議繁脅嗟_ヲ揖勺峙鉞宸倖尖_テ，祥

勸貫隅湧軟，梓_ヲ揖議勺峙鉞序佩縮圍。徽馱倖廣吭議頁，覆_レ (賜頁膿_レ) 惠頁委徭失議勺峙鉞啣昆公移_レ (賜樋_レ)，潤惚疊音尖_テ，宸頁厘断貫狍肇載謹煽霧僥欺議。

椎担，弊順貧頁倦匱壓寄社脅孀岷吉俊鞭議、慌宥議噸演議勺峙鉞椿？厘⑬屎歌紗 M. I. A. 鞞朕—呐曆鍬咎 LVEP，宸頁 Living Values Educational Program 議抹巫，頁祥繁恁疑勸議 12 倖勺峙鉞 (才岷、協彰、栽恬、徭喇) 斤頃徨断序佩縮圍議柴皿。屈斤听音揖定槍，宥狍光嶽斤三、嘎老、咄赤、紙鮫、處丞吉序佩縮圍，霧式才岷議右酷，俊鞭札_ヲ議音揖泣，札_ヲ協疑議疑勸來，繁葎焚担勸_ヲ札栽恬吉吉。旺岷幣幻銚听奕劔哈擬頃徨，頃徨听必採俊鞭吉。

乎柴皿議蒙泣，頁揭蒙協忽社賜蒙協獵晒議勺峙鉞。宸頁葎射廷選栽忽攪羨 50 巔定遇寫梢蝕窟議，埃 20 倖忽社議縮弗氏揖網胎，歌深選栽忽隅湧⑯嫗吉園巫議。祥頁傍，万嚙忱縮、耐怛淚購，頁弊順貧販採匯倖忽社脅孀俊鞭議慌宥議勺峙鉞。⑰壓乎鞞朕壓選栽忽親縮獵快岷議另址和，喇選栽忽隅湧兒署吉另隔，屎壓畠弊順糞佩，廝将壓 64 倖忽社、階狍 1800 倖利孀貧聞喘狍。厘_テ，貫弋僥樓恬葎芙氏匯垂俛倖岑議兒云彈夸，斤器欺慌宥議勺峙鉞繡軟載寄議恬喘。

嗟繁傍，心心⑱書齡樽謹延議弊順，勸器欺弊順慌宥議勺峙鉞，峪音狍頁知_テ。音狍，萩_テ，音消祥辛參教戰冠彭天坏徭喇栖吏議天巖光忽，叙叙壓磯倖弊射參念珊蚩葎黍斤專唔，札_ヲ奎劑、火姬。厘_ヲ佚繁頁辛參延議。

[鍬咎：藍 憩]

港区国際交流協会 交流サロンのご案内

外国人と日本人が自由におしゃべりする場として、毎月第二火曜日の夜、「交流サロン」を開いています。200円程度のスナック菓子をご持参の上、ご参加ください。(Tel. 03-3578-3530)

12月11日(火) 午後7時～8時30分 港区役所 9階 911会議室

1月8日(火) 午後7時～8時30分 港区役所 9階 914会議室

M.I.A. Chatting Room – Let’s talk over a cup of tea!

We very much welcome your attendance at our M.I.A. Chatting Room. Every 2nd Tuesday of each month is your time to come across the mutual understanding and communication between Japanese and non-Japanese residents. Feel free to visit the space, and please bring snacks of 200 yen worth with you. (Tel. 03-3578-3530)

December 11 (Tue.), 19:00 – 20:30, Minato City Hall 9th floor, #911

January 8 (Tue.), 19:00 – 20:30, Minato City Hall 9th floor, #914

住送紐霜佚連

律阻陷序，翌忽繁才晚云繁議住送，耽坵議及屈倅佛豚屈絡貧，參和扮寂訟一住送紐霜，曙扮菽劔菽澇
嗔匯軟歌紗。紐霜扮寂貞住送溜垂氏氏咏（和怜6:00 蝕兵，歌紗徭喇）潤崩岷朔議和怜7:00-8:30。歌紗
ㄱ菽爭揮200 晚坏恣嘔議弍郭歌紗。(Tel. 03-3578-3530)

12坵11晚(佛豚屈) 器雇曝曝叨俛 9促 911氏咏片

1坵 8晚(佛豚屈) 器雇曝曝叨俛 9促 914氏咏片

英語で異文化再発見 / “Let’s Rediscover Japan”

港区国際交流協会では、英語による「異文化再発見」の会を毎月原則第三土曜日に開いています。

日本について、知っていると思っけていても、まだ見落としていていることがあるかもしれません。また、海外のこを知ること、日本のこを知ることもあるかもしれません。

このプログラムでは、毎回、スピーカーが一つの話題を提供します。スピーカーのお話を聞くだけでなく、参加者同士のフリーディスカッションの時間もあります。

興味をお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。新しい発見があるかもしれません。

日にち：12月8日(土)、2月16日(土)、3月16日(土) 午後1時30分～3時30分

場所：三田NNホール スペースD(港区芝4-1-23)

This program for rediscovering Japan is conducted in English. Meetings are held monthly on the third Saturday.

Can you fully and confidently express yourself when discussing Japan and your own country? There may be some things you have overlooked or features which you will want to reexamine after hearing someone else’s ideas.

Meetings include time for free discussion among participants. Everyone is welcome.

Date: Saturdays, December 8, February 16 and March 16

Time: 1:30 p.m. to 3:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

編集後記

今号では、アメリカにおける多発テロ事件に関連した2編の投稿が寄せられました。

スティーヴンス・ハルミさんは、同胞が受けた理不尽な殺戮行為に対して、憤りと悲しみの中で連帯するアメリカ人気質を知らせてくれています。

清澤暢人さんは、普遍的価値観が世界中に行きわたれば、人々のこうした悲しみはなくなるのではないかと提案されています。

わたしたちは21世紀こそ、平和の世紀になりそうな期待を抱いていました。コミュニケーション手段の飛躍的な発達で、誰もがもっている理想や夢を分かち合える時代がきたのだと喜んでいました。

いま、テロリズムの横行、それに対抗する武力行使に、人の心は塞ぎきっています。

愛する人の死に遭遇する苦しみや落胆は、古今東西、どんな人にも共通のはずです。殺人行為を容認することはできません。

すべての人の存在に敬意を抱くという、たったひとつのルールさえ守れば、この最大の悲劇から救われるのではないのでしょうか。

犠牲者への冥福を祈りつつ、人間が自ら荒らしている人間世界を哀しく思うこのごろです。

編集長 中野 義子

Post-script

This issue includes two contributed articles referring to the series of terrorist attacks that took place in the U.S. Ms. Harumi Stephens reports how U.S. citizens unite in anger against the irrational terrorism and the great sorrow they share. Mr. Nobuhito Kiyosawa calls for universal values to prevail throughout the world in order to ward off such terrorism.

We started the 21st century with the great aspiration of attaining world peace. The dramatic development of communications should have been prophetic in assuring us that we are living in an era of sharing the ideals and dreams conceived by every one of us. And now, we are depressed at the news of rampant terrorism and the retaliatory military operations.

Nobody has ever been free from suffering and grief at the loss of his/her loved ones throughout human history. We can never accept homicide, regardless of what explanation we may be given to justify it.

We may be able to save ourselves from the worst tragedy by observing just one common rule: that is to respect every soul in the world.

Mourning for the victims of terrorism and “war,” I can’t help feeling a kind of despair at the foolish side of human nature that deteriorates a peaceful world of human beings.

Editor in Chief: Yoshiko NAKANO

園辞瘁芝

云豚侵墮阻曾鐙購參胆忽壘鞭錢惚訊伽並周好似議獵嫗。

STEPHENS Harumi 溺平斤揖飲促壘囑欺濁罪議姬他佩葎，茅阻燕器風鯨鎬式丑彬翌，厚繡胆忽繁議來鯉賴屁議格⑬公弊繁岑祇。

賠夾芥繁粹伏夸範葎畠弊順免飛啜嗟噸演議勺峙鉞，宸劔議丑丞祥音氏窟伏阻杏。

厘斷議繁棒蘭扮，促湖鞭欺祐逗式証疋，硬書蕪翌，寄社听乎頁匯劔議，蒸斤音孀錐法姬繁ハ議佩葎。峪動寄社脅協疑泳緩議贗壓，宸劔議寄丑丞听乎祥音氏窟伏阻杏？

促握議繁棒蘭扮，促湖鞭欺祐逗式証疋，硬書蕪翌，寄社听乎頁匯劔議，蒸斤音孀錐法姬繁ハ議佩葎。峪動寄社脅協疑泳緩議贗壓，宸劔議寄丑丞听乎祥音氏窟伏阻杏？

壓葎棒佃ハ潮潮啜牽議揖扮，磨斤繁窃議徭ギン火姬湖欺淚曳議丑祐！

園辞海：蕪勸 啞徨
[鋏咎：蛭 序夏]



投稿募集

港区国際交流協会翻訳委員会では、紙上を意見発表 / 交換、討論の場として、多様性を認識し、一層深い理解と友好を互いに深め合うことを目的として「South Wind」を発行しています。皆さまの投稿をお待ちしております。なお、掲載については編集部で検討させていただきます。

投稿方法： 原稿は原則として日・英・中のいずれかを使用してください。

宛先： 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区役所8階
港区国際交流協会事務局 South Wind 編集部
Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

Your Contribution is Welcome

By exchanging opinions with other people, who are from different cultures or backgrounds, in “South Wind,” we hope we are able to recognize the diversity of our society and deepen our mutual understanding and friendship with each other. Please take full advantage of this opportunity to express your opinions! The Editorial Committee reserves the right accept, reject and/or edit articles submitted for publication.

How to contribute: Please write your essay in Japanese, English or Chinese.

Send contributions to: South Wind Editorial Room; Minato International Association
Minato City Hall 8th Floor, 1-5-25 Shibakoen; Minato-ku, Tokyo 105-8511
Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

勅後

朕念雇曝忽縞住送↓氏鍬咎溜垂氏竈井兆出 “South Wind” 議弑烏。兕器音揖忽社岷獵晒欠没吉，札𠄎戾竈光嶽光劔議吭需，委乎烏輝彭窟燕低住算低𠄎網胎光倅吭需岷魁低，序匯化紗侮𠄎札尖盾紗膿住送葎凧朕議。散哭光了持自誘後。繡喇園辞何寫梢頁倦寡喘。

誘後圭隈： 圻後圻獵菽喘和中議囂冨： 晚囂、晒囂、蕚忽囂

辺周仇峽： 105-8511 雇曝中巷柑 1-5-25 雇曝叨低 8 蚊
雇曝忽縞住送↓氏並曆蕉 “South Wind” 園辞何